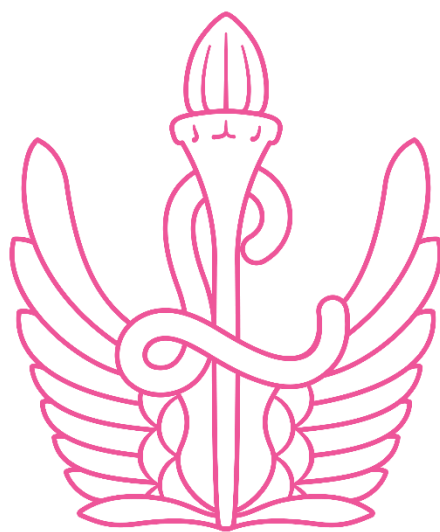


教育白書

2023

【Ⅲ 特集編】

～コロナ禍をふりかえる～



2023年9月25日

東京外国語大学

目次

Ⅲ 特集「コロナ禍をふりかえる」	3
1 前書き	3
2 コロナ禍対応の記録	4
2-1 「Zoomによる同期型オンライン授業の導入をふりかえる」 理事 青山 亨	4
2-2 「コロナ禍でスタートしたたふさぽの活動を振り返って」 アカデミック・サポ ート・センター センター長 布川 あゆみ	13
2-3 「コロナ禍における学生支援について」 留学生課長 大野 智子	19
2-4 「コロナ禍をふりかえって」 保健管理センター所長 山内 康宏	23
3 データの分析	34
3-1 卒業生のうち留学経験のある学生の数（長期、短期）	34
3-2 受入れ学部留学生の国別の推移（変動）	35
3-3 学生相談件数の推移（変動）	37
(資料)「学長メッセージ」 学長 林 佳世子	38

Ⅲ 特集「コロナ禍をふりかえる」

1 前書き

世界保健機構（WHO）が新型コロナウイルス感染症を「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言したのが2020年1月30日、そして、その終了が発表されたのが2023年5月5日のことである。日本国内では、WHOの緊急事態宣言と同日に政府が新型コロナウイルス感染症対策本部を設置しており、この対策本部の終了が今年の5月8日に発表されるとともに、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類感染症から季節性インフルエンザなどと同等の5類感染症に変更された。むろん、世界から新型コロナウイルスが消滅したわけではないが、コロナ禍の猛威は3年が経過したところで、国内外ともに一つの区切りを迎えたと言えるだろう。かけがえのない日常平穏がようやく戻ってきたが、一方で、コロナ禍の衝撃やそれへの対応についての記憶が薄れつつある。しかし、高等教育の提供に責任を有する大学としては、将来にもまたおこりうるパンデミックや災害に備えるため、BCP（事業継続計画）の観点からも、コロナ禍から得た教訓をきちんと記録しておくことが求められよう。まだコロナ禍の記憶が残っている今、コロナ禍が突きつけた挑戦に対する本学のさまざまなスタッフの対応を記録すべく、「コロナ禍をふりかえる」と題する特集編を『教育白書2023』の中に設けることとした。

2 コロナ禍対応の記録

2-1 「Zoomによる同期型オンライン授業の導入をふりかえる」 理事 青山 亨

※2020年度当時は大学院総合国際学研究科長

オンライン授業への切り替えの決断と経緯

ここでは、コロナ禍を機に全面的に始まった Zoom による同期型オンライン授業の導入の経緯とその意義について書き留めておきたい。

本学の本来の 2020 年度計画では、4 月 6 日（月）から春学期の授業の開始を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対応するため、授業の開始を 2 週間繰下げ、4 月 20 日（月）からに延期したうえで、授業を全面的にオンライン授業とすることで乗り切ることにした。一方で、ゴールデンウィークの連休期間中にも授業を実施することにしたので、春学期の授業の終了は 7 月 17 日（金）となり、本来の計画から 1 週間繰り下げるだけの変更で、春学期の授業時間を確保することができた。なお、当初はオンライン授業期間をゴールデンウィーク連休明けまでとしていたが、後述するように、4 月 7 日に緊急事態宣言が発令されたことをうけ、春学期終了まで全面的なオンライン授業が続くことになった。

5 月 20 日時点での文科省の調査によると、全国のすべての国立大学が授業の開始時期を延期したうえで、オンラインによる授業を開始したと回答している。当然のことながら、オンライン授業への対応はそれぞれの大学の教育内容によって左右されるところが大きい。とくに、実験や実習が不可欠な教育をおこなう大学では、オンライン教育への全面的な移行にも時間がかかることは想像に難くない。実際、本学と縁のある東京のいくつかの国立大学をみても、いずれも 5 月のゴールデンウィーク連休明けから授業を開始している。本学の場合は、人文社会系の教育を中心とする小規模な大学であればこそ、4 月中旬から全面的にオンラインに移行した授業を開始することが可能であったと言えるであろう。しかし、可能であったことを実現できた背景には、早い段階でオンライン授業に舵を切る判断がなされたことがある。

本学でオンライン授業移行の判断が下されたのは、3 月 9 日（月）に林学長の要請で急遽開かれた臨時の大学執行部レベルの会合においてであった。この会合には、学長の他、教育担当副学長、研究科長、3 学部長が出席し、春学期の開始時期の延期、渡日予定の留学生への対応、海外にいる留学生へのオンライン教育の可能性が検討された。この 3 月 9 日の会合こそが、本学のコロナ禍対応を決定した重要な転機であったと考えられるが、その意義を理解するために、まず、この日に至るまでの国内外の背景について、少し長くなるが述べておきたい。

WHO が新型コロナウイルス感染症を「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言したのが

1月30日のことで、その同じ日に日本政府は閣議決定によって新型コロナウイルス感染症対策本部を設置している。以後、国内ではこの対策本部によって新型コロナウイルス感染症拡大への対応策が打ち出されていくことになる。折しも、2月になると、横浜に入港したクルーズ船での集団感染が確認され、コロナ禍の衝撃が国内でも強く感じられ始めていた。2月16日に対策本部の下に医学的見地からの助言をおこなう組織として専門家会議が設置され、最初の会合を開いている。2月25日には「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が対策本部によって決定され、水際対策の実施、テレワークや時差出勤やイベント等の開催の再検討の要請、学校等の臨時休業に向けての準備など、現状の共有と対策の基本方針が初めて国民に示された。この方針に応じる形で、2月28日には文科省から小学校、中学校、高校に対して、春休み開始日までの一斉臨時休業の通知が出されている。ただし、いわゆる「三密」（密閉、密集、密接）が集団感染のリスクを高める3条件として提示されたのは3月9日の専門家会議のことであり、広く知られるようになったのは、3月28日に出された「新型コロナウイルス感染症基本対処方針」の中で示されたあたりからのことである。

3月5日に、対策本部では、水際対策強化のためとして9日から韓国・中国からの入国者に対して14日間の待機を要請することが決定された。この入国制限の決定は、翌日、6日（金）にメディアで報道され、週明け9日（月）から実際されるという慌ただしさであったが、本学にとって多大な影響を与えるものであった。というのも、本学の受け入れ留学生の数は、コロナ禍前の2019年には最大の827名に達していたが、国別に分けると上位になるのは中国からの268名、韓国からの100名であり、この2か国だけで、受け入れ留学生の45.5%を占めていた。したがって、新年度の始まりを前に、渡日を間近に控えたこの2か国の留学生たちに対して、不安をおさえるために、早急に明確なメッセージを示す必要があった。

3月9日の会合では、A) 春学期の開始時期を遅らせる場合のシミュレーション、B) 春入学の留学生を、秋入学（または春学期休学扱い）とする場合のシミュレーション、C) 留学生（正規生）が海外にいる状況でオンラインによる教育が必要となった場合のシミュレーションをおこなった。結論として、卒業式と入学式は中止、新学期は2週間繰り下げて4月20日に開始、授業と学内の諸会議はオンラインを活用するという方針が定まった。オンラインの活用はゴールデンウィーク連休明けまでとした。

その後、3月13日に新型コロナウイルス対策の特別措置法（正確には「新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部を改正する法律」）が成立した。この特別措置法は、4月7日の第1回を皮切りに2021年9月までに計4回出されることになる緊急事態宣言の法的根拠となるものであった。4月7日に東京都を含む地域に国の緊急事態宣言が発令されたことにより、本学はオンラインの授業期間は春学期が終了する7月17日まで延長することとした。なお、緊急事態宣言が発令された当初は、緊急事態期間は5月6日までとされていたが、結局、東京都の緊急事態が解除されたのは5月25日のことであった。

授業の円滑な実施という観点からは、春学期終了までをオンライン授業期間とするという本学の決定は妥当であったと言えるだろう。

この時期には、文科省からも複数の通知が届いている。まず、新年度の始まりが近づいていることを踏まえた3月24日の通知では、感染拡大の防止（三密の回避）に留意し、授業開始の延期、学事日程の弾力的な運用、遠隔授業の活用が可能であることなどが述べられている。また、遠隔授業の例として、「テレビ会議システム等を利用した同時双方向型」「オンライン教材を用いたオンデマンド型」を挙げている。なお、遠隔授業の法令的な根拠は、「平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2校の規定に基づく大学が履修させることができる授業等）（通称「メディア授業告示」）」である。続けて4月1日の通知ではQ&A形式で大学側から出されたオンライン授業に関する疑問に答える一方、4月6日の通知ではオンライン授業を実施するにあたって学生の通信環境等に配慮することを求めている。なお、授業の全面オンライン化にあたって、大学側で懸念されていた点の一つは、「遠隔授業により実施する授業科目において修得する単位数は60単位を超えないものとして上限が設定されている」ことであったが、7月27日の通知において、「感染症や災害発生等の非常時においては（中略）特例的な措置として遠隔授業を行うなどの弾力的運用が認められた」ことで解決された。いずれにしても、文科省の通知は、大学が先行して導入していったオンライン授業の実効性を追認するものであったと言えるだろう。

このように、国内で緊急事態宣言が発令される状況にいたった時点で、すでに学年暦上の新年度に入っており、もしこの時点まで新学期の授業開始について判断を留保していたとしたら、4月中旬の授業開始はとて望むことはできなかつたであろう。あらためて振り返ってみると、3月9日に中国・韓国からの入国制限が始まったことが、この時点でオンライン授業への移行を決定するに至った重要な要因であったことが分かる。

Zoomの導入

3月9日の会合でオンライン授業の実施が決定されたが、その際に、ビデオ通話ができる同期型オンライン授業を実施するためのシステムとしてZoomを採用することになった。本学では非同期型オンライン授業を可能とする授業支援システム（LMS）としてMoodleがすでに導入されているが、なぜ新たに同期型オンライン授業のシステムを導入したのか、また、そのためになぜZoomを採用したのかについて、説明しておきたい。今でこそZoomは広く知られたウェブ会議のサービスであるが、当時は必ずしもそうではなかったからである。

本学では外国語教育が教育課程の根幹にあるため、発音をその場で指導できるビデオ通話による同期型オンライン授業は不可欠である。加えて、授業だけでなく教授会などの諸会議もオンラインで行う必

要があることを考慮すると、ビデオ通話ができるシステムの導入は必須であった。その中で、多人数が参加するビデオ通話が比較的簡単に実施できるシステムとして、検討時点で Zoom がもっとも現実的な選択であった。

実は本学では、すでに、大学の世界展開力強化事業の一環として米国の大学との間でテレビ会議システム Polycom を用いた COIL 型教育を実施していた。また、本学の多言語・多文化教育研究センター（現・多言語多文化共生センター）では、2013～14 年度に Skype を用いた遠隔通訳の可能性を探る研究を実施していた。それらの経験から、Polycom には高額な設備が必要であり、Skype は送信側と受信側の両方でアカウントを持つ必要であることが分かっていた。一方、Zoom については 2019 年頃から、欧米の大学とのコミュニケーションを通じてその有用性が知られ始めていた。Zoom はパソコンだけで利用できるし、送信側（教員）だけがアカウントを持っていればすぐに利用でき、導入が容易である点で、優位性が明確であった。

ただし、その一方で、ほとんどの教員には Zoom の利用経験がないため、オンライン授業の開始までに、授業運営に必要なレベルの習熟が必要となることは明らかであった。新年度の春学期開始が 4 月 20 日に繰り下げられたので、それまでに準備を進めることになった。とくに、大学の経費で教育用アカウントを購入し、専任・非常勤を問わず本学の全教員に（その後、職員にも）有償アカウントが利用できるようにする方針が決まったことは、導入を円滑に進めるうえで重要な決定であった。

まずは大学執行部で Zoom に慣れる必要があるということで、3 月 16 日（月）に大学執行部のメンバーを中心に教員有志による Zoom ミーティング「Zoom をわいわい使ってみよう会」が開催された。3 月 17 日（火）には、Zoom ミーティングでの経験や質疑応答を記録し、共有する場として、Dropbox Paper を利用した「Zoom の使い方の疑問、あれこれ」をウェブで公開したことを皮切りに、多くのオンラインの情報共有ページが作られ、さらにマニュアルとしてまとめられたものが PDF として大学ウェブサイトで公開された。3 月 25 日（水）には、大学執行部、部局長、情報企画室、教務課のメンバーからなるメーリングリスト「Zoom Crisis」が設置され、学内での Zoom 導入にむけての連絡や協議の場として活動した。

いよいよ、3 月 30 日（月）には本学教員に対して Zoom アカウントの配付が開始されると、翌 3 月 31 日（火）に、教員からの質問に答える有志チーム「Zoom お助け隊」を設置し、チームによるメーリングリスト「Zoom Support」を公開して日本語・英語で質問に答える体制を作った。そして、3 月 31 日（火）から 4 月 3 日（金）まで 17 時から 18 時の時間をとって、本学の専任教員を対象にした Zoom 講習会を、当初は日本語、最終日は英語で開催し、さらに、4 月 7 日（火）には本学の非常勤講師を対象にした Zoom 講習会を実施した。

コロナ禍にともなって Zoom の利用が急速に拡大したため、Zoom のセキュリティ問題については社

会的にも話題になっていた。本学では、遠隔授業の利便性とセキュリティ確保のバランスを取りながら、試行錯誤のうえ、大学推奨の設定を提示することと、本学の学籍をもつ学生のみがアクセスできる学務情報システムを利用して Zoom ミーティングの ID とパスワードを履修登録した学生に伝達することで、ミーティングのセキュリティを確保することとした。

4月10日（金）には大学院のオリエンテーションを動画と Zoom で実施、4月13日（月）には学部のオリエンテーションを動画と Zoom で実施し、学生にオンライン授業の進め方を周知した。4月7日には新生向けの Zoom 講習会、4月14日（火）には在校生向けの Zoom 講習会を無事に開催することができた。こうして、教員と学生が Zoom の利用について一定の経験を得た段階で4月20日（月）に春学期の授業開始を迎えた。

幸い大きな混乱もなく全面的なオンライン授業を始めることができたなかで、教員側には、初期に Zoom アカウントのアクティベート、その後は Zoom ミーティングのスケジュールや開催、録画記録に関わる問題が見られたが、いずれも「Zoom お助け隊」の尽力で乗り越えることができた。学生側のネット環境も懸念されていたが、アンケートの結果、在校生にはおおむね問題がなかったのに対して、新生の1割弱に何らかの問題があることが判明した。自宅でのネット接続が不安定な学生に対しては、学内でのネット接続を認めることで解決を図った（いわゆる「Zoom 部屋」の設置）。

もとよりオンライン授業は Zoom だけで実施するものではなく、Moodle やメールなどとの組み合わせで行われるべきものである。しかし、最初に挙げた理由で、限られた時間を使って Zoom の導入に注力する必要があったし、そうしたことで円滑に全面的なオンライン授業を始めることができたと総括してよいであろう。

参考までに、春学期が終了した7月中旬の段階で、「Zoom Support」では1161件、「Zoom Crisis」では595件のメールのやり取りがあり、いかに集中的な情報交換があったかがうかがえる。その後、件数は落ち着いていき、2022年4月12日（火）の「Zoom Support 1237」が確認できた最後の案件であった。

オンライン授業と著作権

全面的なオンライン授業を実施するにあたって教員が抱えていた大きな懸念の一つが、教材や資料をオンライン授業で扱うにあたっての著作権の問題であった。幸い、4月28日に施行された改正著作権法によって「授業目的公衆送信補償金制度」が始まることで、大きな一歩が踏み出された。

新制度開始に備えて、4月16日に教育関係者、有識者、権利者で構成される「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」は、教育現場での著作物利用に関するガイドライン「改正著作権法第35条運用指針（令和2（2020）年度版）」を公表した。改正著作権法施行後に行われるオンラインによる遠

隔授業等では、この運用指針に沿って著作物を利用することが求められている。

「授業目的公衆送信補償金制度」の要点は、大学など営利を目的としない教育機関の授業で、一定範囲の利用であれば、著作権者の許諾を得ることなく著作物の公衆送信を行えるようにすることである。対象としては、同期型および非同期型のオンライン授業、予習・復習のための著作物等の送信等が含まれる。これによって、教育機関の設置者（たとえば大学）が著作権者に補償金を支払うことで、個々の教員は一定範囲の利用については許諾無しで著作物を利用できることになる。なお、2020年度についてはコロナ禍対応として無償となったのは朗報であった。

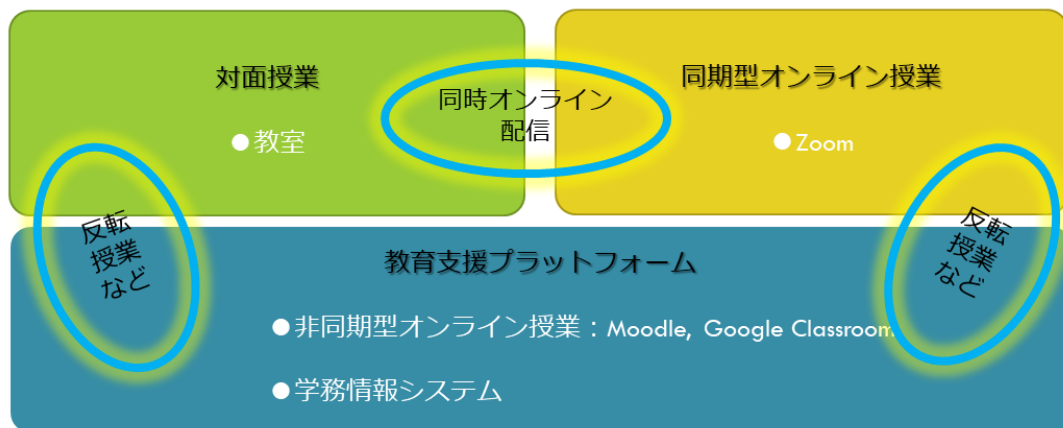
対面授業とオンライン授業のハイブリッド化

東京外国語大学では、コロナ禍に対応するため、すでにある Moodle に加えて、春学期から同期型オンライン授業のツールである Zoom、秋学期から非同期型オンライン授業のツールである Google Classroom を導入し、オンライン授業の導入を図った。なお、Google Classroom は Moodle のより簡易なツールという位置づけである。Moodle についても、8月21日（金）にバージョン 3.1 から 3.5 にバージョンアップされた。これは、全面的なオンライン授業の開始にともない、より安定した利用環境が提供できるようハードウェアを更新したことを機会に、システムの更新を図ったものである。これにより、セキュリティ面も強化されることになった。

秋学期には、オンライン授業を継続しつつも、必要にして可能な授業については対面授業を再開した。基本的には少人数の語学の授業などを対面授業に戻すこととし、全体の 27%が対面授業、残りの 73%がオンライン授業という割合になった。1年生の専攻言語科目の開講コマ数の 48%、2年生の専攻言語科目の 43%が対面となり、とくに、入学以来一度もキャンパスに来る機会がなかった 1年生には、専攻言語科目がすべてオンライン授業にはならないよう調整が図られた。

一方、対面授業とオンライン授業が混在するため、キャンパスに来てオンラインの授業を受講するという事態がおこるようになった。このため、学内にオンライン授業受講専用の教室（11 教室）を設け、各自のパソコンを持ち込むことで Wi-Fi によるネット接続が可能となるよう配慮した。

このように、対面授業とオンライン授業を組み合わせた授業形態をハイブリッド型と呼ぶことがあるが、東京外国語大学における対面授業とオンライン授業のハイブリッド化の現状を図示すると以下のようになる。



図中の「同期型オンライン授業」は「ライブ配信」、「非同期型オンライン授業」は「オンデマンド配信」とも呼ばれる。対面授業とオンライン授業の組み合わせたものは「ハイブリッド型」と呼ばれ、組み合わせ方によってさらに区分されるが、対面授業と同期型オンラインが同時に進行する授業は「ハイフレックス型」と呼ばれる（他に「ブレンド型」があるがここでは触れない）。図のなかで「同時オンライン配信」というリンクで結ばれた対面授業と同期型オンライン授業が「ハイフレックス型」に該当する。

この図から見てとれるように、本学における授業のハイブリッド化は、「対面授業」、「同期型オンライン授業」、「教育支援プラットフォーム（非同期型オンライン授業のツールとしての Moodle および Google Classroom、および、学務情報システムを含む）」という三つの要素から構成されているということである。注意してほしいことは、通常は「非同期型オンライン授業」のツールとして分類される Moodle や Google Classroom は、「対面授業」あるいは「同期型オンライン授業」を常に支えるツールとして、学務情報システムをあわせて「教育支援プラットフォーム」として位置付けていることである。これらを踏まえて、具体的なハイブリット型授業のあり方を考えてみると、以下の3つのパターンがある。

1. 教育支援プラットフォームという（非同期型オンラインの）基盤のうえに、対面授業が実施されるパターン
2. 教育支援プラットフォームという（非同期型オンラインの）基盤のうえに、（同期型オンラインの）Zoom 授業が実施されるパターン
3. 対面授業と同期型オンライン授業が同時オンライン配信で結ばれて同時に進行するパターン

以上の「対面授業」、「同期型オンライン授業」、「教育支援プラットフォーム」の三つの要素の組み合わせの総体が、本学におけるハイブリッド型授業のあり方として整理できよう。

おわりに：オンライン授業がもたらしたこと

最後に、コロナ禍でのオンライン授業の意義とオンライン授業が大学の授業にもたらしたことについて、改めて振り返ってみたい。

2020年の春学期に本学ではコロナ禍の対応として全面的なオンライン授業が導入された。その目的は、学生・教職員の新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを回避することと、学生に対する学習機会の提供を継続することの2点に集約される。将来も起こりえるパンデミックや災害時のBCP（事業継続計画）という観点から、今後もオンライン授業のインフラ構築と維持は重要であると言えよう。また、対面授業からオンライン授業への移行については、本学の場合、留学生の動向に敏感であったからこそ、決断が早かったと言える。今後も、必要に応じて、省庁からの通知を待つことなく、大学の特質を見極めた上での迅速な判断が求められることが分かる。

しかし、オンライン授業の意義は非常時のバックアップのためだけにあるのでは決してない。むしろ、ポスト・コロナ時代におけるオンライン授業は、オンライン授業の本質的な意義である「遠隔授業」という原点に回帰することになろう。しかし、その原点回帰は、コロナ禍で得られたオンライン授業の経験やオンライン設備の強化を踏まえた原点回帰であって、これまでの「遠隔授業」を変革していく可能性を秘めている。

ここでいう遠隔とは、学生が遠隔、教員が遠隔、学生の一部が遠隔（ハイフレックス型）といった様々な遠隔の組み合わせが想定される。たとえば、合理的配慮を要する学生への支援としてのオンライン授業がありえる。また、複数の大学が連携して、授業を共同で運用するオンライン連携授業も、遠隔授業の発展形として期待される。オンライン連携授業の展開のなかで、LMSの共通利用や、通学を前提とした科目等履修や単位互換の制度の再編も視野に入ってくることになろう。このような変化を見据えて、本学の教育情報化支援センターでは、ハイフレックス型授業を支援するTMS（テレプレゼンス・モバイル・システム）や学内外からアクセスできるMoodleであるMOEの開発を進めているところである。コロナ禍がもたらした変化は、ポスト・コロナ時代のオンライン授業のあり方を考えるための材料として、今後も長期的な視点で捉えていく必要があると思われる。

注記

本稿は、筆者のブログ記事（2020年4月24日、4月25日、9月12日）をもとに、再構成したものである。「オンライン授業がもたらしたものの」の節については、以下の文献を参照している。

・京都大学高等教育研究開発推進センター「ハイブリッド型授業とは」

<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/hybrid.html>

・日本語ジャーナル：日本語を「知る」「教える」「オンライン教育は「対面授業の代替」から「ハイブ

リッド型への最適化」へ」(2020-08-02)

<https://nj.alc-nihongo.jp/entry/20200802-hybrid>

・文科省「新型コロナウイルス感染症を踏まえた、初等中等教育における これからの学びの在り方について ～ 遠隔・オンライン教育を含む ICT 活用を中心として ～」(2020-07-02)

https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_syoto02-000008827_8.pdf

2-2 「コロナ禍でスタートしたたふさぼの活動を振り返って」 アカデミック・サポート・センター センター長 布川 あゆみ

アカデミック・サポート・センター（通称：たふさぼ）が新設されたのは、2020年4月のことであった。履修の相談や学修成果の可視化を担うセンターとして設立された。しかし、コロナ禍真っただ中でのセンター立ち上げだったゆえに、オンライン授業実施に関連した幅広い支援を行う必要が生じた。当初の予定になかったことに戸惑いながら、その都度、関係者間で検討しながら取り組んでいく、そんなチャレンジの連続だった。2020年度を中心に、コロナ禍を振り返りたい。

● 2020年春学期：オンライン授業実施に向けての準備

たふさぼとして最初に取り組んだことは、学生を対象とした zoom 講習会をサポートすることであった。2020年4月1日（水）には、藤縄康弘先生（当時、学長特別補佐（教育改革担当））と石田理恵特定研究員（留学生アドバイザー）と初回の打ち合わせを行った。オンライン授業受講にあたって「学生がどのような点につまずくか、困難を覚えるか」を重点的に洗い出した。その後も複数回、打ち合わせを重ねた。

藤縄先生（日本語）および石田さん（英語）によって、4月7日（火）、9日（木）、10日（金）に新生向け、4月14日（火）、15日（水）に在学生向け Zoom 講習会が開催された。円滑なオンライン授業実施に向けて、カメラオン・オフ、ミュートオン・オフの操作やチャット送受信、画面共有、質問の仕方（リアクションボタンの使い方）、ブレイクアウトルームへの移動などの一通りの zoom 操作を、学生のみなさんと確認する機会をもった。この講習会に参加できない学生も一定数見込まれたため、講習会を録画し、後日公開するという方式もとられた。すべて初めてのことづくしで、講習会を担う側も参加する側も、独特の緊張感があった。しかし、オンライン上で「つながる」ことに大きな喜びが見いだされたのも、この時であった。

講習会の実施と並行して、オンライン授業実施に備えて、新生、在学生みなさんの自宅のネット環境、パソコンなどの機材の準備状況について、状況把握することも進めた。アンケートの回答からは、一人暮らし先の学生だけでなく、実家暮らしの学生もインターネット環境が十分に整っていないケースもあることが見えてきた（当時、自宅にインターネットをひいていない学生や、自宅にインターネット環境はあるものの、通信量に制限のある契約をしている学生が圧倒的に多かった）。また自分のパソコン（カメラ・マイク付き）を持っていない学生も少なからずいることも分かった。

フルオンライン授業実施に向けて、カメラ付きパソコンが用意できない学生には、情報企画室で手配してもらった iPad を貸し出すこととなった。あわせて必要な学生に wifi ルーターを貸し出すこととな

り、会計課で手配をしてもらった。2020年の春当時、長期レンタル用のwifiルーターは全国的なニーズの高まりで品薄な状態になっていた。本学では遠方に暮らす学生（コロナ禍、地方の実家に戻った学生）を対象に、優先的にwifiルーターを貸し出すこととなった。キャンパス周辺に暮らす学生には、感染対策の上、来学してもらい、一人一教室を割り当てて、学内で受講してもらおう形をとった。学生や非常勤講師の先生方にスムーズな教室案内をしてくださったのは、普段、教育情報化支援室で受付対応をされていたみなさんであった（写真1、2、20年春学期は来校者数を日々カウントし、感染対策のため一人一教室を割り当てた。その記録の一部）。

日	教員番号	教室口	備考
6/15 (月)			
1	230	11-57	16.05
2	207	11-57	16.05
3	200	11-55	16.05
4	202	11-57	16.05
5	210	11-57	16.05
6	211	11-57	16.05
7	212	11-57	16.05
8	213	11-57	16.05
9	214	11-57	16.05
10	215	11-57	16.05
11	216	11-57	16.05
12	217	11-57	16.05
13	218	11-57	16.05
14	219	11-57	16.05
15	220	11-57	16.05
16	221	11-57	16.05
17	222	11-57	16.05
18	223	11-57	16.05
19	224	11-57	16.05
20	225	11-57	16.05
21	226	11-57	16.05
22	227	11-57	16.05
23	228	11-57	16.05

写真1



写真2

● オンライン授業実施に伴う様々な反応

zoomでの授業が始まると、大丈夫だと思っていた自宅のネット環境が不安定になるケースもあり、メールで相談が続々と寄せられた。会計課を通じて、追加でwifiルーターをなんとか確保していただき、学生に貸し出すこととなった。2020年春学期を通して、wifiルーターやiPadを遠方に住む学生に発送し続けることは、たふさほの主要な業務であった。発送作業では連日、総務企画課でお世話になった。

今でも忘れることができないのは、春学期授業1週目、2週目のことである。「先生から送られてきたzoomにアクセスしているが、先生のアクセスがない（先生が現れない）」、「待機室ですずっと待機していて、入れていない」、「先生がミュートになっていて、声が聞こえないので、ミュートを解除して欲しいと伝えているが、先生のミュートが解除されない。もう30分以上もこの状態で困っている」といった問い合わせ・相談が電話で相次いだ。zoomサポート隊の出番であった¹。教務課や情報企画室、zoomサポート隊と連携の上、zoom情報を確認し、学生、教員に情報を伝えながら、授業の開始を見

¹ 図書館休館に伴い、図書館4階のICCカウンターでアルバイトに従事していた院生のみなさんに、研究講義棟1階の100教室にて、急きょ「zoomサポート隊」として勤務を開始してもらっていた。

守った。大半の授業が無事にスタートを切れたが、やはり初期には混乱もあったことを、ここに記しておきたい。

※写真3 2020年春学期の100教室では、フェイスシールド、ビニール手袋をしながら、来学者に対応していた。



写真3

授業回が進んでくると、今度は教員側から、カメラをオンにするように伝えても、学生のカメラがオンにならない、呼びかけてもなかなか応答がない、チャットでも反応がないといった声が聞かれた。一方、学生からは、許可なく授業の様子をスクリーンショットで記録し、SNS上で公開しているケースがあるようだといった相談も寄せられた。その他にも、「先生がカメラオンを求めてくるが、現状対応できない（カメラオンにすると通信環境が不安定になってすぐ切れてしまい、入退室を繰り返すことになってしまう）」といった相談も寄せられた。この時期に、zoomサポート隊の一人であったMiki氏による一連のzoomサポート動画が作られ（「オンライン授業受講にあたってのエチケット」など）、学生だけでなく、教員も視聴し、全学でオンライン授業を受ける・実施するにあたっての「心構え」を確認した経緯がある。

春学期中盤の6月には、在学生を対象に「オンライン授業に関するアンケート」をGoogleフォームにて実施した。コロナ以前は、用いられることがほとんどなかったGoogleフォームであったが、この頃までには学生も教員も身近なツールになっていた。2000件を超える回答が学部生・大学院生から寄せられた。その後たふさばでは各種アンケートを実施しているが、今日まで、この回答数は未だ一度も破られていない、歴代ダントツ1位の記録である。アンケートには「通学のストレスがない」、「授業に遅刻しない」、「教室での授業より、質問がしやすい」、「感染のおそれがなく、安心である」といったオンライン授業を歓迎する声が多く寄せられた。一方で、「映像が乱れることがある」、「先生の声が聞き取りづらい」という声やフルオンライン授業ゆえに、朝から晩までパソコン画面を見ることになり、「目が

疲れた」、「頭痛や肩こりがひどい」といった不調を訴える声も多数聞かれた。また日本への入国制限が続き、入国がかなわないまま、時差をなんとか乗り越えながら、オンライン授業を懸命に受講している学生の様子も伝わってきた（日本時間での授業実施だったため、現地時間深夜／早朝から授業開始となる学生もいた）。授業の途中で少し休憩をはさむことや学生に積極的に声をかけることを授業担当教員に依頼するなどの対応につながった。学生の声を身近に聞ける組織として、学生が寄せてくれる声をきちんと伝える・届けることを責務として感じる契機となった。

- 2020年春学期の出勤をめぐる葛藤

2020年春学期は、出勤すること自体とてもハードルが高かったことも記しておきたい。緊急事態宣言が発令され、外出が自粛されたあの春。出勤すること自体がはばかられた。出勤すると「自分も感染してしまうかもしれない、家族の感染リスクをあげてしまう」という恐怖感があり、葛藤もあった。しかし、大学に来ないと対応できないことばかりであった。あの当時、感染への恐怖や葛藤を感じながらも、教育・研究環境を維持するために、出勤し、それまでとは異なる業務に追われた教職員がいたことも、ここに残しておきたい。また困難な状況の中でも、アルバイトを継続してくれた大学院生もいた。

あの当時、静寂につつまれた、それまでに経験したことのない「異様な」雰囲気があった。あの日々を、なんとか乗り越えられたのは、「緊急事態で、今、踏ん張らないといけない」という、使命感のようなものを一人ひとりがもっていたからなのではないかと振り返る。現場への声かけが林学長から毎日あったことも大きかった。2020年春学期、「何か変わったことはないか」と毎朝、受付・100教室・たふさぼを見回りに来てくださっていた。その際に、学生のみなさんから上がってくる声を毎日学長に届け、対応について教務課や情報企画室、zoomサポート隊のみなさんらと検討を重ねた。

- 2020年秋学期：対面授業の一部再開

2020年秋学期には専攻言語科目の授業を中心に、対面授業が再開され、キャンパスに声に戻ってきた。たふさぼもzoomを中心に、相談受付をようやく開始した。「本来の」たふさぼとしての出発であった。wifiルーターの貸し出しやヘッドセットの機材貸し出しも続けた。しかしながら「緊急事態宣言」の発令も続き、依然として日常生活には制限がかかることが多かった。大学としても「在宅受講申請」制度を設け、自身に基礎疾患があったり、入国制限の影響で入国が叶わないなど、事情がある場合には、必修の専攻言語の授業を中心に、対面授業もオンラインで受講できるよう、同時配信の体制を整えた。zoomサポート隊だけでは、同時配信の機材準備、教室の様子撮影が十分にまかなえなかったため、同時配信のアルバイトも募集した²。新たに多くの学部生・院生が協力してくれ、在宅受講制度は成りた

² 当時、まだAIによる話者追尾機能のwebカメラは普及しておらず、授業中、配信員が授業（教室

った。100 教室で「お願いします、いってらっしゃい」と声をかけ、配信員を送り出し、「お帰りなさい、zoom 参加の学生はちゃんと授業に参加できたか、声は拾えていたか」と確認することが、大事な日課となっていた。教室内の音が上手く拾えない、黒板やホワイトボードが zoom 参加者にうまく映し出せず、ノートがとれないようだといった課題を洗い出し、つど関係者で機材の使い方の工夫含め、解決策を探った。

2020 年秋学期は、部活やサークル活動も制限があり、外語祭は中止となるなど、学生にとって楽しみとなる活動の多くが実施できなかった。友達ができない、誰とも話していない、孤独だという声が学生からよく聞かれるようになった。

「履修の相談があって」とたふさぼに電話をかけてきた学生が、履修の相談の話がひと段落すると、「秋から留学に行く予定だったのに行けず、思っていた学生生活と全然違っていて、辛い」、「家にずっと一人でいるのがもうきつい」、「実家に帰りたいけれど、感染が広がる東京からはまだ帰って来ないでほしいと親に言われている、年末年始も東京で一人かとおもうと・・・」と、電話越しで泣いていることが分かるケースも少なくなかった。

それまで学生が泣いてしまうという場面を経験したことがなかったので、外線電話が鳴ったときに、いつも大きな緊張が走ったことは、鮮明に覚えている。センター長として、率先して電話を取らねばという思いと、ちゃんと自分に対応できるのだろうか、葛藤した。

電話越しで泣いている学生に、どんな言葉をかけたらいいいのか、今かけた言葉は、ちゃんと励ましになっているのだろうか、私自身思い悩むことも多かった。この電話を切った後、学生はちゃんと前を向けるだろうか、最悪の決断をしないだろうか、電話を切るときに、手が震えることもあった。

カウンセリングが必要な学生に、きちんと学生相談室につなぐ、医療が必要な学生をきちんと保健管理センターにつなぐ、きちんと学生課と情報共有するということを、実践のなかで学んだ日々であった。またたふさぼ相談員の小林幸江先生（当時）、金井光太郎先生にじっくり学生の話オンラインで聞いてもらうだけでなく、センター長としての私の悩みも聞いてもらうことも多々あった。

「孤独だ」、「他の学生とのつながりががない」、「友達ができない」という学生からの声を受けて、「たふさぼおしゃべり会」をたふさぼスタッフと企画するようになったのも、2020 年秋学期のことである。あの時から今日まで、「たふさぼおしゃべり会」は学生のみなさんと交流する大事な機会として、たふさぼでは位置づけている。

内)の動きを手動でやって、撮影する必要があった。

■ 2020 年度秋学期たふさぼおしゃべり会一覧（そのほとんどをオンラインで実施した）

<p>学部生対象 第1回 たふさぼオンラインおしゃべり会</p> <p>開催日時：2020年11月13日（金）11時30分～12時30分</p> <p>新学期が始まって1か月経ちました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。授業や課題はオンラインで学習を進めて、みなさんお困りではないでしょうか？ 第1回は日本語オンラインおしゃべり会です。みなさんの学習面に関する疑問や悩みを、たふさぼスタッフと一緒に、じっくりお話ししましょう。アイデアや情報を共有したいという思い、疑問や悩みがある方は、下記より事務局までお問い合わせください。おしゃべり会を開催します。予約のある方はご来校ください。予約のない方はZoomからご参加ください。第1回の会場をお知らせします。</p> <p>Zoom URL:</p>	<p>学部生対象 トーク&シェア 第2回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>外大生流！ 語学学習法</p> <p>開催日時：2020年12月2日（水）11:50～12:30 場所：TUFS アカデミック・サポート・センター（たふさぼ）</p>	<p>学部生対象 トーク&シェア 第3回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>みんなどうしてる？ おうち時間の効率的な過ごし方</p> <p>開催日時：2020年12月8日（火）11:50～12:30 場所：TUFS アカデミック・サポート・センター（たふさぼ）</p>	<p>学部生対象 トーク&シェア 第4回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>対面 と オンライン どっちが好き？</p> <p>開催日時：2020年12月16日（水）14:20～15:00 オンライン開催（ZoomのURLを渡ってお知らせします）</p>
<p>学部生対象 トーク&シェア 第5回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>あなたのわたしの 2020年</p> <p>開催日時：2020年12月23日（水）13:30～14:10 オンライン開催（ZoomのURLを渡ってお知らせします）</p>	<p>学部生対象 トーク&シェア 第6回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>テーマ： 『卒論』</p> <p>2021年1月27日（水） 15:30～16:30 オンライン開催 （ZoomのURLを渡ってお知らせします）</p> <p>卒論を書く際の悩みや疑問、執筆のモチベーションを高めるためのヒントやアイデアを共有しましょう。卒論の書き方や進め方、また卒論のテーマや内容に関する質問も受け付けます。</p>	<p>編入生対象 トーク&シェア 第7回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>「編入生」の過ごし方 新学期をどう迎える？</p> <p>開催日時：2021年2月9日（火）13:30～14:10 オンライン開催（ZoomのURLを渡って連絡します）</p> <p>編入生の皆様いかがお過ごしでしょうか。外大に編入して「たふさぼ」で過ごす1年間の振り返りと新年年度の準備</p>	<p>学部生対象 トーク&シェア 第8回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>冬学期の過ごし方 いかに冬を越えるか</p> <p>開催日時：2021年2月15日（月）13:00～13:40 場所：オンライン開催（ZoomのURLを渡ってお知らせします）</p>
<p>学部生対象 第9回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>Talk & Share 卒業生のお話を聴こう</p> <p>2021年3月5日（金）16:00～17:00 オンライン開催（ZoomのURLを渡ってお知らせします）</p>	<p>学部生対象 第10回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>アメリカの社会情勢 について語る会</p> <p>3月17日（水）14:00～15:00 Zoom開催（URLを渡って連絡します）</p> <p>社会情勢について先生と交えて話したい人集まれ！</p>	<p>学部生対象 第11回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>これから日本語教育を学ぶ ことについて話す会</p> <p>3月19日（金）14:00～15:00 Zoom開催（URLを渡って連絡します）</p> <p>「日本語教育に興味があるけど、何をしたらいいんだろう。」 「チャレンジしてみたいけど、覚える自信がなくてー」</p> <p>日本語教育に関心があるって、これから勉強したいと思うみなさんの第一歩になるよう、考えや悩みをシェアして、お話ししたいと思います。</p> <p>今回はたふさぼの教務アドバイザー・日本語教育が専門の小林幸江先生をお招きします。たふさぼスタッフが会の進行を務めます。みなさんの疑問や悩みも伺いいたします。</p> <p>少人数でのおしゃべり会です。ぜひお越しください！</p>	<p>学部生対象 第12回 たふさぼおしゃべり会</p> <p>Talk & Share 大学院進学する？</p> <p>「研究に興味はあるけれどー」 「大学院に進むか迷っているみなさん！ 留学生の先輩・学友の話を聴こう」</p>

● おわりに：コロナ禍の経験を今後につなげる

大学は「高等教育機関」であり、学生が自律的に学習を行う場であって、学修支援はそぐわないという考え方もあるだろう。大学は「そんなこと」までする必要がないという考え方もあるだろう。しかし、コロナ禍を活動のスタートとしたたふさぼでは、教育環境を維持するために、必要な支援をできるだけ学生に届けて行くという姿勢を実践で積み重ねた。積み重ねてきたこれまでのことは、コロナがあけた今でも、大切にしたいと考えている。

学生と上手くつながれず、できることは少ないと支援の限界を感じることはたふさぼ4年目の今も度々ある。しかし、あの、孤独で、大変だった日々を乗り越え、無事に進級・卒業を迎えたり、自分が考えている将来に悩みながらも進んでいった学生たちを目にすると、可能性の塊だとつくづく思う。

学修支援と一口にいっても、どこまで大学がかかわれるのか、関わる必要があるのか、判断がつかぬことも多い。ただ、迷った時には、大学ができることは何か、大学教育にかかわる多くの人々が考え抜き、葛藤しながらも連携・協力して取り組み、そして最大限の反応をくれた学生たちの、あの2020年度に立ち返る。

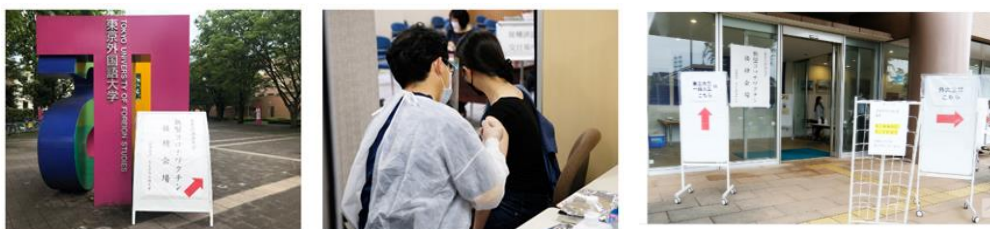
2-3 「コロナ禍における学生支援について」 留学生課長 大野 智子

※2021 年度当時は学生課長

学生課では、「新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 24 年法律第 31 号）第 18 条に基づく基本的対処方針」等を踏まえ、学生の学修機会の確保は勿論のこと、感染対策を徹底しつつ、対面活動をいち早く再開することを目指し、主に次の取組を実施しました。

【感染対策の徹底】

- 2020 年、本学 HP に「新型コロナ関連連絡フォーム」を開設、関係者間の迅速な状況把握と対応に努めました。
- 2021 年 7 月より、四大学連合の枠組により、コロナワクチンの大学接種を実施。本学と東京工業大学の会場併せて、本学 1,188 名の学生が、コロナワクチンの接種を受けました。本学の学生の約 27.5%が、大学接種を利用したことになります。



大学の様子；四大学連合等の大学間連携により、本学の学生のほか、東京工業大学や一橋大学などの留学予定者にも接種が行われました。

- 学生の家族・保証人により構成される学生後援会の支援を受け、2020 年度に研究講義棟入口にサーモセンサー、教室にパーテーションを設置したほか、2021 年度には、抗原検査キット 1,500 セット購入、希望する学生に配付する等、感染対策の徹底を図りました。



学内の感染対策；教室の机にパーテーションを設置したほか、研究講義棟 1 階に手洗い場を設置。研究講義棟 1 階入口にはサーモセンサーを設置し、感染対策の徹底をはかりました。

【対面活動の早期再開に向けた支援】

- 上述の感染対策を行うことにより、早期の派遣留学の再開、感染対策を講じたうえでの対面での課外活動の再開に努めました。課外活動の対面再開にあたって、2020 年度にコロナ禍における活動のガイドラインを策定、活動に参加した個々の学生の健康状態を学生団体、学生課双方で確認する仕組みを整備し、より安全な環境で活動ができているかの確認を日々行いました。その他、2021 年度以降は、伝統行事である外語祭やボート大会の対面開催等を段階的に行い、コロナ禍においても、学生が交流できる場を確保しました。



ボート大会の様子：2022 年 6 月、戸田公園オリンピックボートコースに於いて、3 年ぶり、107 回目として開催されました。抽選で選ばれた 1 年生 20 クルーと有志 10 クルーが、チームごとにおそろいの T シャツを着るなどしてレースに臨みました。



第 100 回外語祭：外語祭は、2020 年の第 98 回は完全オンラインの開催となりましたが、2021 年の第 99 回は、都内の大学の中ではいち早く対面で開催されました。2022 年には第 100 回外語祭を開催。2 年ぶりに料理店も復活し、最終日には 100 回目を記念する花火があがりました。学生課の窓口にも、祝 100 回の装飾を施しました（写真中央）。第 99 回の開催以降、ハイブリッドによる企画が実施されるなど、コロナ禍で培った経験を、学生たちも引き継いでいるようです。

- 本学の卒業生の会である「東京外語会」からの支援を受け、経済的困窮学生を対象とした“食の支援”を実施。2020 年度からフードパントリーを実施したほか、2021 年度には 100 円で朝食・夕食（弁当）の提供、大学生協食券配付（昼食支援）を行い、1 日 3 食分の、食の支援体制を整え

ました。100円朝食・弁当は、学生からの反響に加え、メディアでも取り上げられるなど話題になりました。その結果、2021年度以降のフードパントリーの実施にあたっては、東京外語会のみならず、学内外の有志の方からも、ご支援をいただくことができました。

フードパントリーで配付された食品：留学生支援の会からの生活応援券の配付のほか、報道をご覧になった一般の方からお米300キロご寄付いただくなど、多くの方のご支援をいただきました。



100円朝食のお知らせ（大学生協）：100円での食事提供は、授業実施日に朝食と夕食（お弁当）それぞれ100食を提供したほか、昼食支援として経済的に困窮している学生を対象に、生協の食券配付を行いました。沢山の学生が利用し、複数のメディアでも取り上げられました。100円での朝食提供は、学生の生活リズムを整えることを目的に、2023年4月以降も引き続き、実施しています。

- 国からの支援策である「コロナ家計急変制度」等と並行し、2020年度に、本学独自の経済支援策として「新型コロナ無利子貸与制度」を2020年度に実施、延べ34名の学生に対して、コロナ禍により経済的困難に陥った学生が学修を継続できるよう、支援を行いました。
- 対面活動が制限される中で、こころの悩みも顕在化しました。学生相談室では、2020年度に相談をいち早くオンラインに切り替えて対応を開始し、同年に「心の健康アンケート」を実施、フォローの必要な学生をスクリーニング、希望に応じたケアを行いました。コロナ禍の2020年度以降、学期の変わり目などの、特に学生相談室の利用が多い時期は臨時でカウンセラーを増員したほか、2022年度には、学生後援会からの支援を得て、外部の業者と契約し、休日・夜間に、日本語または英語で相談できる相談窓口を新たに設置しました。外部の相談窓口は、現在も継続しており、2023年4月から中国語の電話相談窓口も増設しました。
- 本学では多くの学生が海外に留学し、また海外からの学生を受け入れています。学生課のお隣の留

学生課では、2020 年度以降、海外留学中の学生の帰国支援のほか、本学に受入れている留学生に対しては、帰国だけでなく新規で入国を希望する学生に対する支援等、個々の実情を踏まえた対応を行いました。

これらは、取組の一例ですが、コロナを契機に、学生の抱える様々な問題が顕在化し、これまでのやり方では対処しきれないことが肌感覚として見えてくるなど、今後の学生支援を考えるうえでのヒントも、幾つか得られたと感じています。ポストコロナ期における継続的な学生支援につなげていければと思います。

2-4 「コロナ禍をふりかえって」 保健管理センター所長 山内 康宏

2023年（令和5年(R5)）5月8日に、新型コロナウイルス感染症は、わが国の感染症法上の位置付けで第2類から第5類に変更／緩和され、従来のインフルエンザ感染症等と同様に扱われるようになり、R2年から約3年にわたり対応してきた「新型コロナ感染症」対策（コロナ禍）は一段落つくこととなった。新型コロナ流行前の日常生活を「従来」とするならば、従来の日常生活を取り戻す／復帰する方向への行動と共に、「ウィズコロナ時代」に取り入れられた新しい生活様式を、より住みやすくより利便性が高くなるよう運用すべく新しい日常生活へ変化しながら、社会は前進している。

大学保健管理の観点においても、従来行ってきた健康管理体制から、感染症の蔓延に伴い感染対策を導入し対応した体制を経て、今後「コロナ後」の健康管理を踏まえた体制について、見直す時期を迎えている。さらにグローバルな存在感を基調に世界と盛んに交流を行っている本学においては、今回の世界的規模の感染症を機に、我々が対応してきた体制を大切な経験として記憶に刻むと共に、今後も再び生じる可能性のある感染症対策や社会の変化に迅速に対応できるように備えておくことが重要である。今回のコロナ禍のエピソードを振り返り、今後生じ得る事態への対応に生かすために、一連の経過や対応等をここにまとめておく。

・未知の新型感染症が蔓延するまでの経緯

まず、わが国で緊急事態宣言が発出されるまでの経緯について振り返る。今回の世界的流行を来した感染症は、WHO（R2年1月5日付）より、中国湖北省武漢市でR元年12月から原因不明の肺炎が発生していることが発表された。厚生労働省（R2年1月6日付）からも武漢市において「原因となる病原体が特定されていない肺炎」の発生が複数報告されていること、病原体が不明であること、感染経路が明らかでないこと等が発表された。数日のうちに武漢市における入院肺炎患者の検体から遺伝子配列解析により新型のコロナウイルスが同定され、この「新型コロナウイルス」を原因とした肺炎と判断された。その後の報告（R2年1月20日付）で武漢での新型コロナウイルス関連肺炎が急増し、また中国以外のアジア圏の国（本邦を含む）からも複数名の感染者が確認されたことが報告された。WHOにおいて「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」に関する審議が開かれた（1月22日）が、当時は「該当せず」の判断となった。その後、世界各国から感染者が報告されるようになり、わが国でも水際対策として航空便・クルーズ船等でも健康カードの配布を開始するなど感染対策の呼びかけが開始されるようになった。1月27日には指定感染症・検疫感染症に指定され、わが国での蔓延防止に対策が始められた。1月29日には武漢市からチャーター便による邦人帰国が開始された。また国内でのバスツアー参加者における感染事例が報告されるようになった。1月31日にWHOは「中華人民共和

国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況」が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（Public Health Emergency of International Concern: PHEIC）」に該当すると発表された。医療機関において「帰国者・接触者外来」が設置され、保健所において「帰国者・接触者相談センター」（電話相談）が設置されるようになった。2月3日には横浜のクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」内での集団感染が判明し、船内での大規模な集団感染を引き起こした事例がある。2月7日の国外における新型コロナ感染症（発生状況）は、中国で3万人を超える感染者数が報告されていたが、中国以外のヨーロッパ・アメリカ・アジア・オーストラリア等の世界各国で20名程度以下の感染者数の報告であった。その後も感染者数は増加傾向を示し、2月25日に我が国での感染者は139名となり、中国で7万7千名、韓国830名、米国35名、イタリア230名、イラン60名など世界各国で感染者数が増加傾向となった。その後も世界的に感染者数は急激に増加し、世界各国で1~2週間の間にまさに「感染爆発」（overshoot）と呼ばれる状態となった。医療的な観点から、この感染爆発の状態では、感染症罹患者の急激な増加と共に、一定の割合で重症・重篤な感染者が急増することとなり、さらに患者数は医療機関の人的・施設のキャパシティーを超えるようになり、感染症への対応・治療が不能となる事態を迎え、さらには感染症以外の全ての疾病への対応が不能となり、「医療崩壊」を来す非常な事態を迎える国々が多くなった。特に、新型コロナ感染症では（後に判明したことだが）高齢者や高血圧・糖尿病等の基礎疾患を有する者において重症化する危険性が高かったため、世界的な高齢化社会の昨今で、全身状態の重篤化する患者が多くそれと共に致命率が高い状態となった。このような世界規模の感染症の蔓延にともない、世界各国で感染爆発と医療崩壊を来したため、各国の情勢に応じて、「緊急事態宣言」・「ロックダウン」・「外出禁止令」等の臨時対応が取られるようになった。我が国においては、感染対策の徹底と共に「三つの密」の回避・「No!密」が徹底されるようになった。日本では感染症に対するマスク着用への抵抗感が少ないという国民性によるのか、様々な憶測はあるが、世界各国で感染症が蔓延するスピードに比すると、比較的緩やかな蔓延下スピードであった印象はあり、また医療状態はかなり逼迫しほぼ医療崩壊（緊急事態）にまで迫っていたが、医療崩壊というまでの状況には至らなかった印象はある。しかし、新型コロナ感染症の蔓延の波は着実に押し寄せ、感染者が徐々に増加してきた経緯があり、R2年4月7日に東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡の7都道府県に緊急事態宣言が発出され、4月16日にはその範囲が全国に拡大され、本格的な「コロナ禍」に突入することとなった。

・本学保健管理センターにおけるコロナ禍での業務とその経過

保健管理センターでは、従来、学生および教職員の定期健康診断とその事後対応、プライマリケア（メンタルヘルスケアを含む）、学生の健康診断証明書の発行、学内の安全衛生管理に関する業務、健康情報

の発信等を中心としたさまざまな業務を遂行してきた。以下に、これら業務に関しコロナ禍を通しての対応等を述べる。

(1) 定期健診

(a) 学生定期健康診断

学校保健安全法で学生の定期健診は毎年6月30日までに実施することが求められているため、例年4月初旬に春季定期健診（入学時健診を含む）を実施してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、定期健診の4月実施については延期を検討せざるを得ない事態となった。R2年3月19日付で文部科学省「事務連絡」において「児童生徒等の定期健診については、感染症による影響のため実施体制が整わない等、やむを得ない事由によって当該期日までに健康診断を実施できない場合には、当概年度末日までの間に可能な限り速やかに実施する」と変更された。これを受け、4月初旬に予定していた春期定期健康診断は延期する（当初は感染状況に応じて期日未定）こととなった。その後、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を確認しながらその開催時期を検討していた（例えば職員健診を実施する6月など）が、大学での秋学期開始予定日を考慮し、また健診業者による実施の可能性を含めた日程調整を行い、R2年度学生定期健診は秋学期開始の10月初旬に実施することとなった。

R2年度の定期健診実施にあたっては、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2020.5.22 ver.1）」（文部科学省）の「健康診断」の項目を参照にしながら、感染症対策として、適切な換気に努め、会話を控えるよう、またマスク着用を指示し、健診会場での密を避ける（keep social distance）ために、健診日程を従来の「3日間（在学生2日と入学生1日）」から「5日間（在学生3日と入学生2日）」に変更して、感染対策を励行しながら健診を実施することとした。また、体調不良者は受診を控える、健診時に非接触型体温計で体温確認する、健診中に健診者の触れる機材や場内設置物等については適宜アルコール消毒を行い、健康診断の実施による感染拡大を防止するように、努めた。

学生の定期健診受診者数を〔表1〕に示す。コロナ前（H30年・R元年）の受診状態と比較できるようにH30年からの推移を示す。R2年度の健康診断受診者数は、学部生・大学院生においては、コロナ禍での開催であったこと、自宅でのオンライン授業を継続している学生が多いことなども反映しているためか、受診者数は著名に減少していた。

R3年度の春季健康診断（入学生含む）は、引き続きコロナ禍での開催となったため、R2年度健診と同様に厳重な感染対策を行い、健診日程を5日間（在学生3日・入学生2日）として、4月初旬に実施した。また海外からの留学生については、健診実施日に入国可能となっていた学生を対象として実施し

た。また、健診日以降に入国可能となった留学生については、感染対策として結核感染対策も重要であるため、7月中旬に胸部 X 線のみ実施してその評価を行った。また、R3 年度の秋季定期学生健診は、例年通り 10 月に秋季定期健診（1 日）を実施した。定期健康診断受診者数については、学部生はコロナ前受診者数を上回り全体にコロナ前の学生健診の受診者数に回復した。

R4 年度の春季健康診断（入学生含む）は、引き続きのコロナ禍での開催ではあったが、社会的背景としてコロナも「第 6 波」を迎え「with コロナ」での生活様式も定着し、コロナワクチン接種も社会的に 3 回目が接種可能な状態となっていた状況などもあり、健診日程は従来の 3 日間（在学生 2 日・入学生 1 日）に変更して、感染対策を継続して実施することとした。また、秋季定期学生健診も例年通り 10 月（1 日）を実施した。定期健康診断受診者数については、コロナ前の受診者数を上回るような状態となった。今後の留学や就職活動を控えて、学生の健康に関する意識が改善していることが影響している可能性がある。

(b) 職員定期健康診断

学校保健安全法で、職員の健康診断は、毎学年定期に実施することが求められているため、例年 6 月初旬に教職員健診を実施してきた。しかし、R2 年 3 月 19 日付の文部科学省「事務連絡」において、「感染症による影響のため実施体制が整わない等、やむを得ない事由によって当該期日までに健康診断を実施できない場合には、その事由がなくなった後すみやかに健康診断を実施する」とことと変更されたため、6 月開催予定としていた職員定期健康診断は延期（感染状況に応じて期日未定）となった。その後、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を確認し、また大学での諸行事を勘案し、また健診業者による健診実施可能日程を含めて調整を行い、R2 年 12 月初旬に実施することとなった。

教職員の定期健診受診者数を [表 2] に示す。コロナ前（H30 年・R 元年）と比較できるよう、H30 年からの推移を示す。コロナ前と比較して、全体での受診率はやや低下していた。定期健診受診率の変動は少なかったが、人間ドック受診率が減少している状態であった。コロナ禍では医療逼迫を含め人間ドックを開催する医療機関が受診者数を制限していた背景や、また人間ドック受診による感染防止のために、ドックの受診控えが影響している可能性がある。

R3 年度の職員定期健診は、コロナ禍が持続していたが、感染対策を継続しながら、例年通りの 6 月開催（2 日間）となった。定期健診の受診者率に著変はないが、依然人間ドックの受診者数は減少している印象があり、全体としてやや受診者率は低下している可能性がある。

R4 年度の職員定期健診は、コロナ禍の状態が持続していたが、感染対策を継続しながら、例年通りに 6 月開催（2 日間）となった。定期健診の受診者数がやや低い印象があるが、人間ドック受診者も回復傾向にあり、全体の受診率は回復している状態と思われる。

(2) プライマリケア

R2 年度は緊急事態宣言と共に春学期が開始となり、大学はオンライン授業で開始となった。緊急事態宣言が発出されている間は、教職員においても可能な限り在宅業務を取り入れて対応することとなった。保健管理センターにおいても緊急事態宣言中（4月7日から5月6日まで）は、週2日（月曜・金曜）は開所して業務（通勤）を行う日・その他の曜日（火曜・水曜・木曜）は在宅にて業務を行う日と設定し、また5月7日から5月25日までは、週3日（月曜・水曜・金曜）を開所業務とし、週2日（火曜・木曜）を在宅にて業務を行う日と設定した。面談は対面かオンライン（ZOOM）面談のいずれかで対応したが、例えば面談時に診察や本人署名などが必要な場合においては対面業務で行い、対面以外での面談が許容される際には、本人希望に沿ってオンラインでも対応した。ただし、面談業務は、記録書類の保管の観点から、在宅業務では行わず、開所日に保健管理センター内でのみ実施した。この間の面談は、主に、就業制限を受けている就業者の産業医面談と、授業配慮申請を希望する学生の面談が多かった。授業配慮申請は、コロナ禍であるという状況が加味され、通常の授業配慮申請期間以外でも、コロナ禍に伴う心身の体調不良に対しても、授業配慮申請を可能とするよう大学で認められたため、配慮申請を希望する学生の面談が増えていた。緊急事態宣言が解除された5月26日以降は、週5日開所とし、通常通りの勤務状態とし、本人の状況または希望に応じて、対面もしくはオンライン面談（ZOOM）を行った。

R2 年度の保健管理センター利用者（プライマリケア）について、[表3]に示す。年初の2カ月間が緊急事態宣言下で大学でのオンライン授業の導入に伴い登校する学生が少ないこと、またコロナ禍でもあり、体調不良者の大学通学等を控えるように呼びかけていた影響もあり、R2 年度の学生利用者は大幅に減少した。加えて、従来は、プライマリケアとして感冒や体調不良等の受診者に対し診察を行い数日間以内の処方等に対応してきたが、コロナ禍では保健管理センターで新型コロナウイルス感染症の診断と治療及びその対応と管理を実施することができないことから、感冒様症状や体調不良者については、近隣医療機関の受診を指示するように対応していたため、利用者が減少した原因と推察される。

保健管理センターでの新型コロナウイルス感染症の診療を行うことについては、施設内設備（感染性医療廃棄物の管理・ゾーニングを含め感染対策を実施し得る機能を備えていない）が不十分であること、医療スタッフが乏しいこと、血液検査やレントゲンなどの医学的検査を行えないこと、発生時の保健所への届け出とその後の治療薬の処方と発生後の経過観察（体調管理と悪化時の医療的対応）等の対応が難しいこと、インフルエンザ流行時もインフルエンザ診療は他医療機関への受診を勧奨してきたこと等の理由により、新型コロナウイルス感染症の診療を保健管理センターで実施することは不可能であると判断した。

R3 年度と R4 年度とコロナ禍の持続の中で、大学での学びや課外活動が復活するにつれて、保健管理

センターの利用者も次第に増加する傾向が認められた。しかしながら、大学での学びの継続を推進する上では、学内での感染蔓延防止に努める必要があり、特に体調不良者には登校を控えるように呼びかけていたこともあり、従来の利用者数に比較すると減少している状態が持続していると考えられる。

R5年度となり、5月以降は感染症での分類も変更され、保健管理センターでの感冒・体調不良者等は従来通りに対応する方針としている。しかし、学内での感染症の蔓延防止の観点から、37.5℃以上の発熱を伴う体調不良者や明らかな新型コロナウイルス感染症が疑われる者については、引き続き、検査が可能な外部医療機関の受診をすすめている。

(3) 精神科面談

精神科面談は、従来、精神科医師（非常勤）により、精神一般とコミュニケーションサポートを中心とした面談を実施している。コロナ禍における精神科面談は、上記プライマリケアと同様の対応としたため、緊急事態宣言の期間中は面談日を設定できず、専門医による面談が実施できなかった。緊急事態宣言が解除された以降は、プライマリケアと同様に、従来の火曜もしくは木曜に精神科面談を行った。精神科面談の受診状況を〔表4〕に示す。精神一般の受診者については、コロナ禍に伴う大学利用者の減少もあり、また非常勤精神科医による面談が週1日（月4日）程度であることも影響し、R2年度の精神科利用学生は減少した。また、R3年度も引き続き減少が続いている。さらにR4年度においては精神科医（非常勤）が1名のみとなり、面談が月1日のみと減少したため、利用者数はさらに減少した状態となった。

コミュニケーションサポートの受診者はコロナ禍で利用者が減少していたが、その後は改善傾向にある。

また、このコロナ禍で、精神科の専門医による面談が難しい際には、保健管理センターの学校医・産業医が臨時的にプライマリケアの一環として対応し、学生の心理的諸問題に対応した。その受診者数を〔表4〕の「(a) 学生の心身不調に伴う受診者数」と「(b) 教職員の心身不調に伴う受診者数」とに示す。「学生の心身不調者」(a)については、コロナ前の受診者数と比較して、実数としてはコロナ禍の受診者数は減少しているが、プライマリケアとして受診した患者数における心身不調者の割合（小計(%)）では、コロナ禍における心身不調者の受診率はコロナ前より高い状態となっており、コロナ禍に心身不調をきたしていた学生が多かった可能性が考えられる。また「教職員の心身不調者」(b)についても、コロナ前の受診者よりコロナ禍において心身不調者の受診者数が多い状態であり、またプライマリケアにおける受診率も高い状態となっており、コロナ禍に心身不調者を来した教職員が増加した可能性も考えられる。

(4) メール相談

メール相談では、学内学生（留学生を含む）を主として、相談内容（フィジカルヘルス・メンタルヘルス等を含む）を問わず、保健管理センターのメールアドレス宛てに寄せられるメールでの相談窓口である。なお、回答については、できる限り1回みの返信となるように、また可能な限り、対面での面談もしくは電話やZOOMでの対応となるように、心がけている。メールのみのやり取りでは、書面（文字）のみによるやりとりで、相互の理解に齟齬が生じる可能性や、十分なやり取りができない可能性もあるため、相互にうまく理解できるような対応に留意している。

メール相談件数を〔表5〕に示す。H30年やR元年に比すると、R2年のコロナ禍を契機にメール相談件数は格段に多くなった。メール相談の内容は、自分の体調不良や心身の不調に伴う相談が多いが、留学に向けた健康診断書の作成に関する相談であったり、医療機関受診に関する相談であったり、相談内容は様々である。

R3年度、R4年度と共に、コロナ禍を通して、メール相談は増えた状態が持続している。

(5) 健康診断証明書の発行

健康診断証明書の発行については、学務部（教務課前）に設置されている自動発行機で発行している健康診断証明書と、保健管理センターで面談を行い発行している健康診断証明書との総数を表している。健康診断証明書の発行は、留学前に必要な準備書類として活用することや、就職活動で要求される書類として利用するなど、学生の活動状況を反映している数値の一つであると考えられる。〔表6〕にその証明書の発行部数を示す。

従来の発行数に比較すると、コロナ禍ではその発行数は減ったが、その後回復傾向となっている。コロナ禍からの回復に伴い、活動が回復している事を示唆すると思われるが、コロナ前に比すると依然少ない状態ではあり、コロナ禍に伴い活動が制限されている可能性を反映しているものとする。

(6) 学内における安全衛生管理

(a) 学内での感染対策

新型コロナウイルス感染症の国内での蔓延に伴い、R2年3月4日に、保健管理センターから学内での発症者や感染対策の方向性として、「感染を疑わせる症状が出た際のマニュアル」・「新型コロナウイルス感染症に罹患した際のマニュアル」・「新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に特定された際のマニュアル」等を作成し、学内での感染蔓延防止に向けた取り組みを開始した。また同時に学内においても、「新型コロナウイルス感染症対策」に向けて、学長・総務企画課を中心として、学生への対応は学生課が、留学生への対応は留学生課が、教職員対応は人事労務課が、消毒対応は施設企画課が、マスク対応は広報・社会連

携室が対応するという方向性となり、大学全体で一丸となって、新型コロナ感染対策にむけた対応が開始されていった。さらに学内では「新型コロナ対策会議」が大学内でも本格的に始動し、毎週月曜 10 時から定期的に各部門の関係者が ZOOM 会議で情報共有しながら本学における感染下での対策や対応に関する協議がすすめられた。

さらに、新型コロナ感染症に罹患した学生・教職員は本学 Web に掲載された「コロナ連絡フォーム」(google form)に登録する形で、大学内でその罹患状態などを把握できるように集計され、各対応部署が個人に連絡しその状況を把握対応する様になった。また、保健管理センターでは、学生の新型コロナ罹患者に、療養期間が明ける頃に電話連絡をし、体調確認などを行い、回復状況や日常生活への復帰について確認するように対応した。

(b) 新型コロナ感染症ワクチン接種

(4 大学合同ワクチン接種：東京医科歯科大学・東京工業大学・一橋大学との協力)

我が国での新型コロナウィルスワクチンの接種は、R3 年 2 月に入り、予防接種法により臨時接種として公費負担で接種がすすめられることとなり、R3 年 6 月から「職域接種」として各事業所内でのワクチン接種を進めるような運びとなった。また、大学では活動の再開としての留学を前提とした学生においては、コロナワクチンを接種していることが広く求められるようになった経緯もあり、積極的に学内でワクチン接種を実施することが検討された。しかし、本学のみではワクチン接種に向けて対応するには人員不足で、学内でのワクチン接種の実施が難しいという現実があった。しかし、4 大学連合（東京医科歯科大学・東京工業大学・一橋大学と本学）での協力により、人的パワーを相互に協力・補充して接種することが可能となった。4 大学合同でのワクチン接種 1 回目の会場は本学本部管理棟の 2 階「中会議室」「大会議室」等を使用することとなった。R3 年 8 月 3 日に、接種医師および救急対応医師は東京医科歯科大学を中心として、薬剤師・看護師なども各大学から協力し、医療体制をサポートした。また本学の英語対応が必要な教職員・家族等については、本学保健管理センターで接種・対応することとして、新型コロナ感染症に対するワクチン接種が行われた。

2 回目のワクチン接種（8 月 30 日～9 月 3 日）は、東京工業大学で実施された。

(c) 新型コロナウィルス抗原検査

大学内での学びの再開にむけて、また学内でのコロナ感染症の蔓延防止にむけて、文部科学省から新型コロナウィルス抗原検査キットが配布されることとなった。R3 年 8 月に本学でもその配付キットを入手できたため、希望者に新型コロナウィルス検査を行えるように検査対応を検討した。しかし、保健管理センター内では、感染対策が難しくセンター利用者の安全性の確保が難しかった経緯もあるため、

検査は本部管理棟の小会議室を使用して、感染対策を励行しながら、検査することで準備を進め、R3年11月より、小会議室を使用して、検査を実施することとした。しかし、実際には小会議室を借用できる期間に制限（R3年12月末まで）もあり、また体調不良者には医療機関の受診を推奨していたこともあり、当該期間に学内で検査を実施したことはなかった。ただし、その後も抗原検査キットについては使用法を案内するなどして、抗原検査キットを配付（R4年1月～3月末まで）して対応した。

（7） 学内における健康情報発信

従来、保健管理センターでは、学生・教職員の健康推進の観点から、定期的（隔月程度）に保健管理センターのweb上に「ほけせん便り」として健康情報を発信してきた。今回の「新型コロナウイルス感染症」においても、保健管理センターとして発生早期から着目し、「新型コロナ関連肺炎」としてR2年1月より情報発信を始めた。特に、WHO および厚生労働省・国立感染症研究所等から発信され信頼できるwebページを中心に、「新型コロナウイルス感染症」に関する新たな感染症情報や医学情報等を収集し、信憑性の高い内容で「ほけせん便り」を作成し、発信した。さらに、感染症情報や医学情報等の最新情報を提供できるように、積極的に情報収集を行うように努めた（ほけせん便り201号～204号：1月20日・2月4日・2月19日・3月12日の計4回/2カ月）。コロナ禍の期間中にも定期的にコロナに関する情報や、ワクチン接種に関する情報などを取り上げ、発信した。

以上、コロナ禍における保健管理センターの対応などをまとめた。

世界規模で蔓延するウイルス感染症を含む新興感染症は、そう頻度が高く生じるわけではないが、しかし今後も今回と同様に世界規模で新興感染症が発生する可能性は十分ある。感染症の蔓延は原因病原体の特性によって、感染様式・感染スピードやまた感染症としての重症度・致命率等がさまざまであり、またその感染対策も、疾患のインパクトにより要求される対応が異なるため、臨機応変な対応が必要となってくる。そのため、今後発生しうる新興感染症への対策について、より迅速に対応できるように今回の記録を残した。今回の経験を基に、迅速に評価・対応すべき案件などを念頭に置いて、対応することが必要である。

しかしながら、また一方で、今後発生しうる新興感染症が今回と同じスケールで同じスピードで進展するかとは限らないし、また同時に必要な対応が全て今回の対応と同様に生かせるとは限らない。むしろ、その感染症に応じ、必要でかつ迅速な対応が求められるため、今回の経験を基礎として、更に良い対策が講じられるように対応することが必要であると考え。

[表1] 学生定期健康診断

	H30年			R元年			R2年			R3年			R4年		
	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)
学部生	3,912	2,164	55.3	3,881	2,324	59.9	3,813	1,682	44.1	3,801	2,447	64.4	3,606	2,436	67.6
(1年生)	820	800	97.6	812	795	97.9	774	582	75.2	775	747	96.4	783	761	97.2
大学院生	530	214	40.4	536	248	46.3	546	177	32.4	546	187	34.2	538	240	44.6
留日C (学部進)	52	52	100	57	57	100	60	60	100	59	59	100	59	59	100
留日C (研究生)	20	20	100	26	26	100	21	17	81	23	0	0	-	-	-
総計	4,514	2,450	54.3	4,500	2,655	59.9	4,440	1,936	43.6	4,429	2,693	60.5	4,203	2,735	65.1

[表2] 教職員定期健康診断

	H30年				R元年				R2年				R3年				R4年			
	対象者 (人)	受診者数 (人)		受診率 (%)	対象者 (人)	受診者数 (人)		受診率 (%)	対象者 (人)	受診者数 (人)		受診率 (%)	対象者 (人)	受診者数 (人)		受診率 (%)	対象者 (人)	受診者数 (人)		受診率 (%)
		定期健診	人間ドック			定期健診	人間ドック			定期健診	人間ドック			定期健診	人間ドック			定期健診	人間ドック	
教員	289	178(61.5)	81(28.0)	89.6	277	172(62.1)	71(25.6)	87.7	266	165(62.0)	55(20.7)	82.7	266	165(62.0)	65(24.4)	86.5	269	159(59.1)	75(27.9)	87
事務員	184	144(78.3)	31(16.8)	95.1	194	157(80.9)	28(14.4)	95	191	153(80.1)	29(15.2)	95	213	169(79.3)	25(11.7)	91.1	215	163(75.8)	34(15.8)	91.6
総数	473	322(68.1)	112(23.7)	91.8	471	329(70.0)	99(21.0)	90.9	457	318(69.6)	84(18.4)	88	479	334(69.7)	90(18.8)	88.5	484	322(66.5)	109(22.5)	89

[表3] プライマリケア

	H30年度	R元年度	R2年	R3年	R4年
学生 (人)	1,967	2,120	956	1,511	1,424
教職員 (人)	694	748	560	546	530
総計 (人)	2,661	2,868	1,516	2,057	1,954

[表4] 精神神経科

	H30年度	R元年度	R2年	R3年	R4年
精神一般（人）	98	92	30	36	8
サポート（人）	64	80	54	46	81

精神一般：精神科医師（非常勤）による面談（週に1回の半日外来）

R3年度まで非常勤医師が2名であったがR4年度から1名となり月に1回の頻度となる

(a) 学生の心身不調に伴う受診者数

不眠（人）	1	4	3	1	2
摂食障害（人）	2	2	0	1	0
神経症（人）	0	0	0	1	0
他精神神経（人）	1	138	69	101	142
内科精神相談（人）	360	244	211	232	188
小計（人数）	364	388	283	336	332
小計（％）	18.5	18.3	29.6	22.2	23.3

(b) 教職員の心身不調に伴う受診者数

不眠（人）	0	3	0	0	0
摂食障害（人）	0	0	0	0	0
神経症（人）	0	0	0	0	0
他精神神経（人）	0	112	141	96	163
内科精神相談（人）	158	43	65	53	47
小計（人数）	158	158	206	149	210
小計（％）	22.8	21.1	36.8	27.3	39.6

[表5] メール相談

	H30年度	R元年度	R2年	R3年	R4年
対応件数（件）	49	72	217	182	199

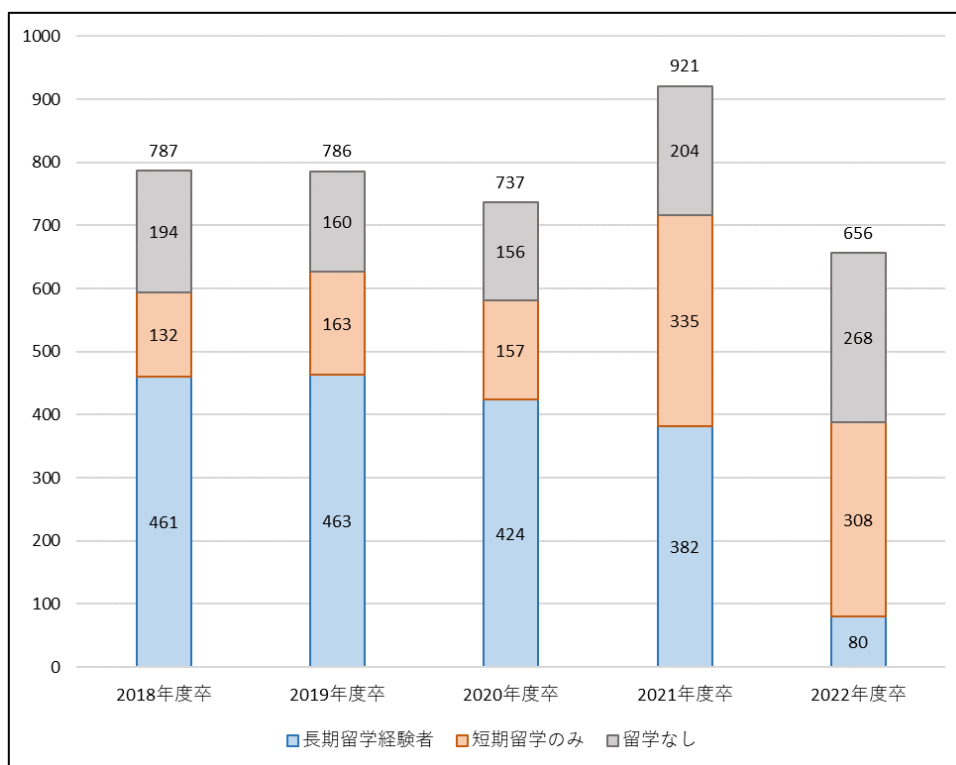
[表6] プライマリケア

	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
発行数（通）	2,586	2,143	1,090	1,887	1,973

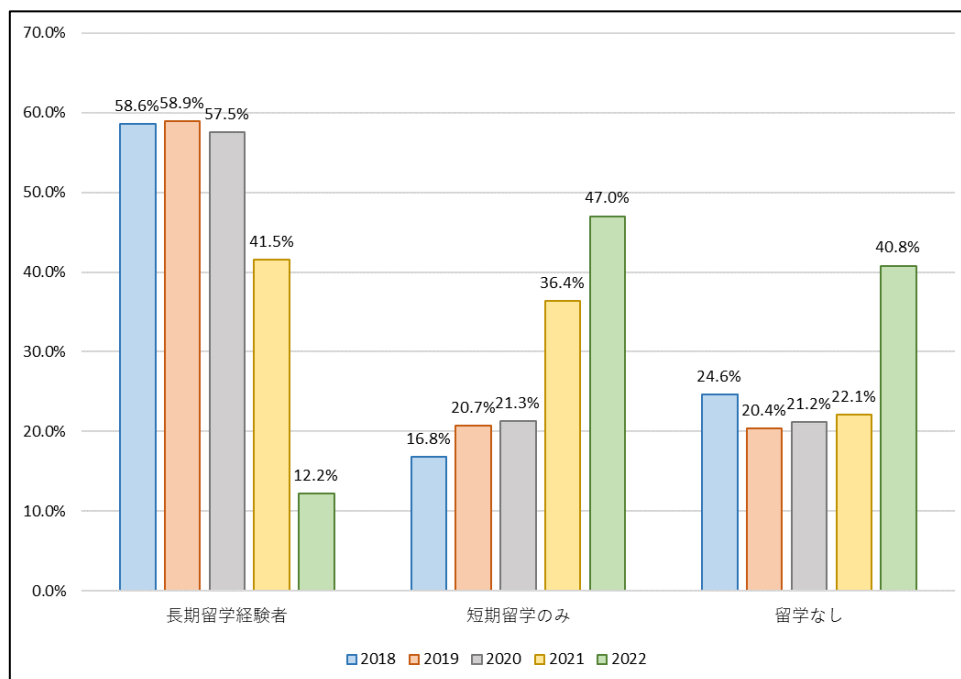
3 データの分析

3-1 卒業生のうち留学経験のある学生の数（長期、短期）

(1) 学部3月卒業生の留学経験者数【実渡航のみ】

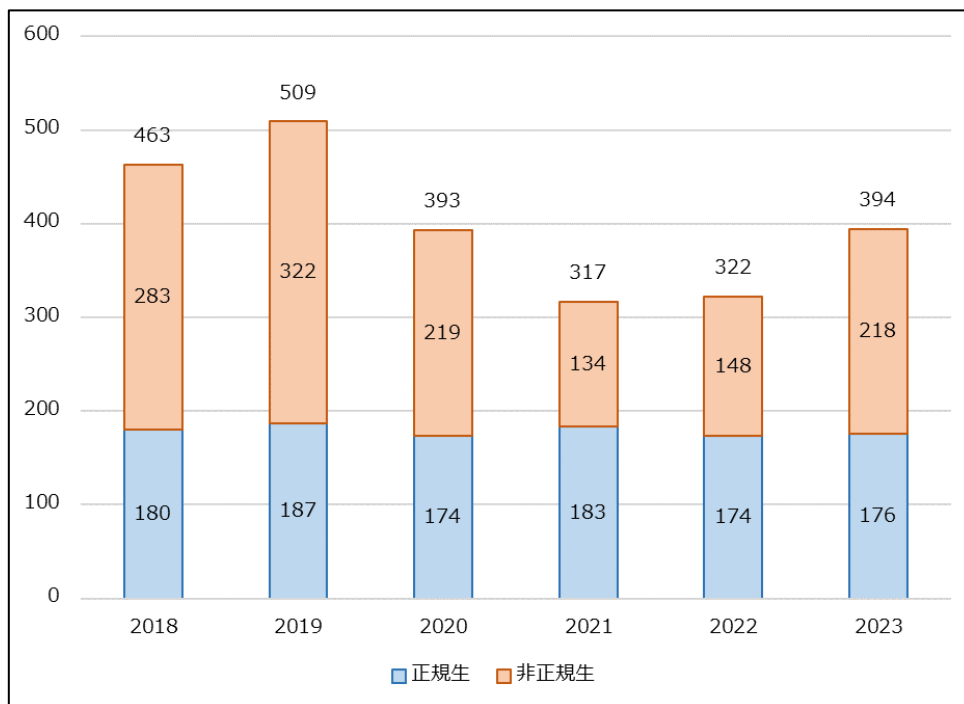


(2) 学部3月卒業生の留学経験割合（留学種別）【実渡航のみ】

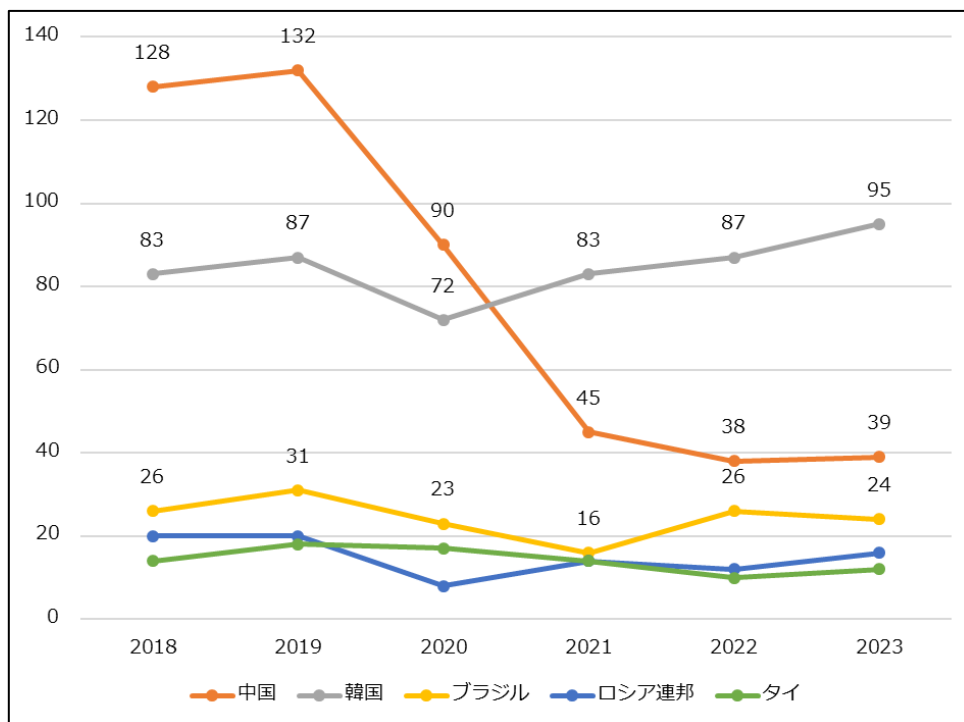


3-2 受入れ学部留学生の国別の推移（変動）

(1) 受入れ学部留学生数

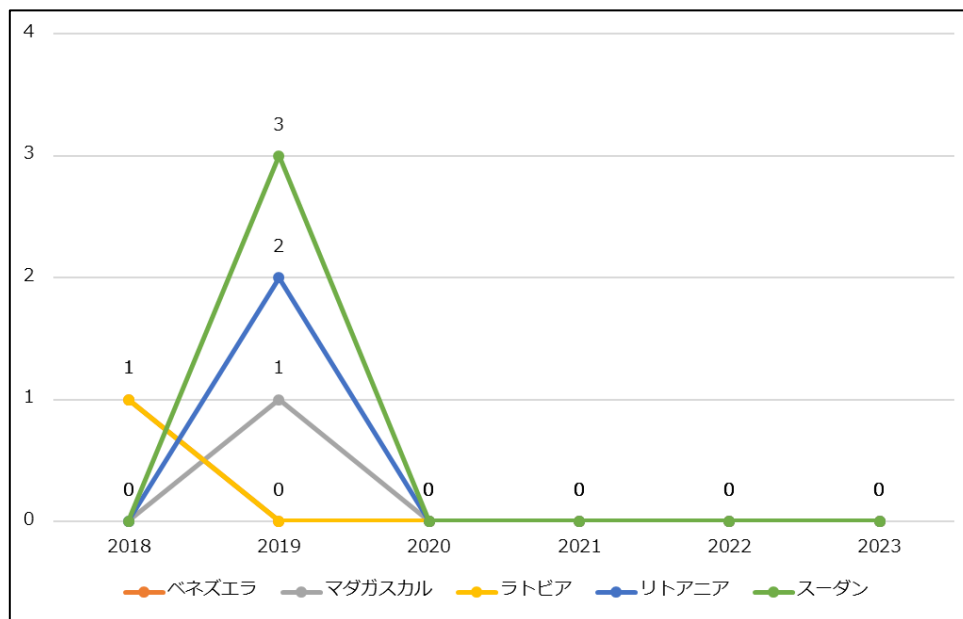


(2) コロナ前受入れ学部留学生数上位5か国の推移



※非正規生も含んでいます。

(3) コロナ後学部留学生受入れがなくなった国の推移



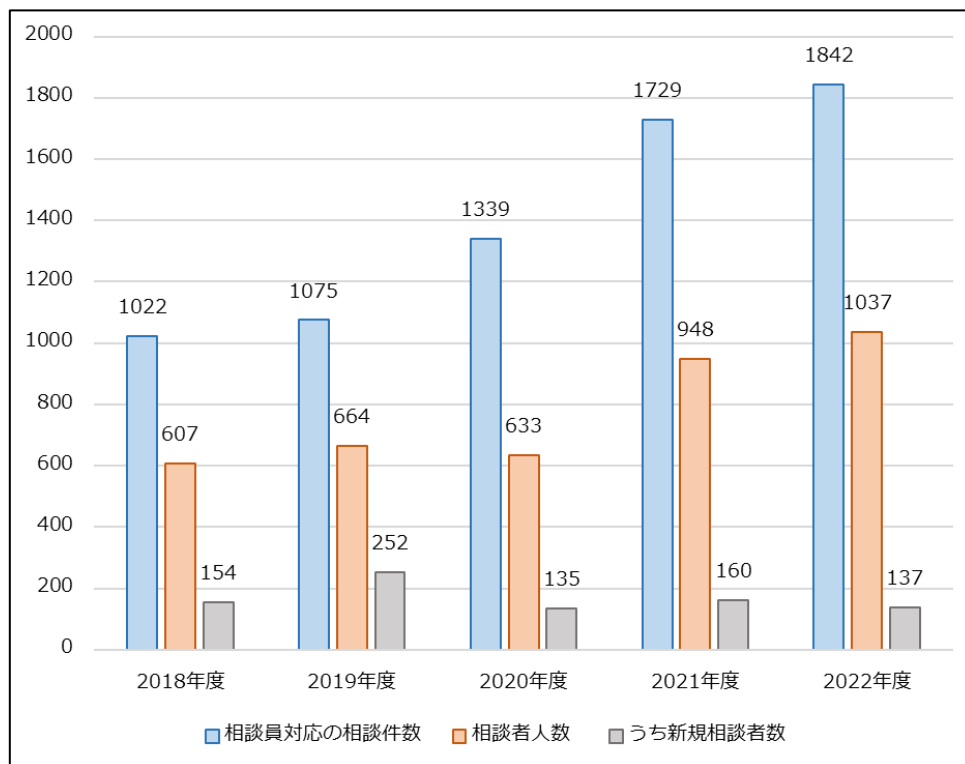
※ベネズエラはラトビアと同じ推移で重なっています。

留意事項

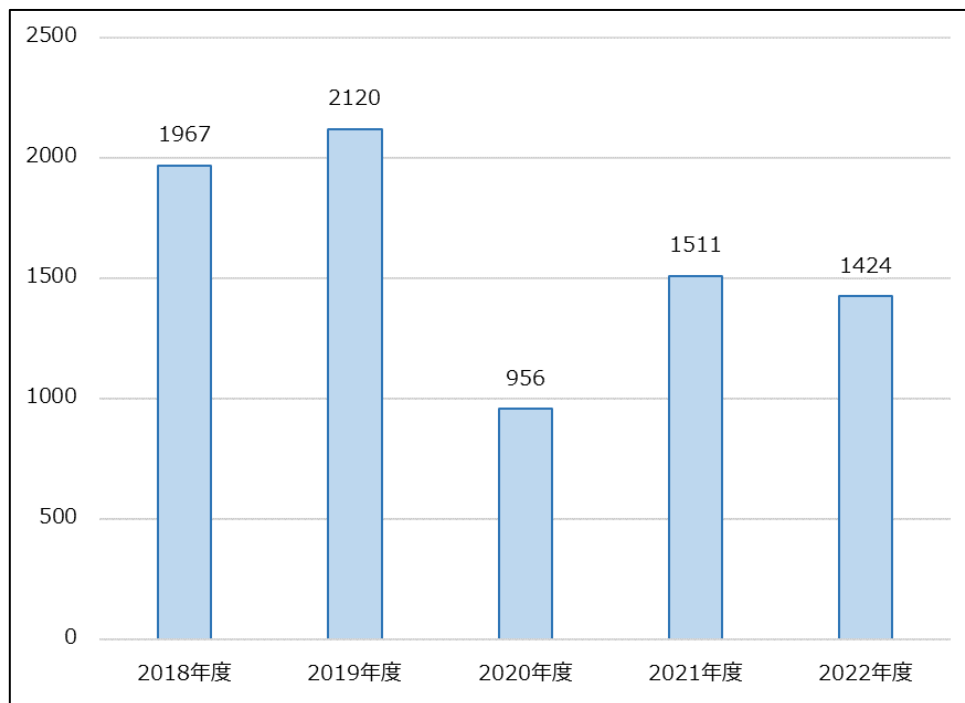
「3-2 受入れ学部留学生の国別の推移(変動)」において、各年度5月1日現在の数値となっております。

3-3 学生相談件数の推移（変動）

(1) 学生相談室



(2) 保健管理センター



※「プライマリケア・内科・応急措置・保健指導」の学生利用者数を表示しています。

(資料)「学長メッセージ」 学長 林 佳世子

2020年3月23日から2023年4月3日までに本学ウェブサイトに掲載された「学長メッセージ」を以下に記載します。当時のままの文章ですので、URL等が無効になっている場合があります。

- 【学長メッセージ】日本へ入国できない新入生及び在学生の皆さんへ（2020.03.23）
- 【学長メッセージ】在学生の皆さまへ（2020.04.03）
- 【学長メッセージ】オンライン授業延長のお知らせ（2020.04.07）
- 【学長メッセージ】在学生・新入生の皆さんへ、新学期に向けての注意（2020.04.13）
- 【学長メッセージ】新学期を前に、学生の皆さんへ（2020.04.17）
- 【学長メッセージ】夏学期前半の授業、及び派遣留学について（2020.05.12）
- 【学長メッセージ】2020年度に留学を予定されている皆さんへ（2020.06.02）
- 【学長メッセージ】緊急事態宣言解除後の対応について（2020.06.03）
- 【学長メッセージ】秋学期の暫定的な予定について（2020.07.08）
- 【学長メッセージ】2020年度秋学期について（2020.08.25）
- 【学長メッセージ】いよいよ秋学期が始まります（2020.09.28）
- 【学長メッセージ】緊急事態宣言の発表に際して（2021.01.07）
- 【学長メッセージ】来年度の予定など（2021.02.02）
- 【学長メッセージ】新学期にあたり・・・（2021.04.02）
- 【学長メッセージ】まん延防止等重点措置の適用を受け（2021.04.12）
- 【学長メッセージ】ゴールデンウィーク前後の感染対策について（2021.04.22）
- 【学長メッセージ】今年度、長期留学を予定している皆さんへ（2021.05.26）
- 【学長メッセージ】留学を予定している皆さんへ（2021.06.10、2021.06.11 追記）
- 【学長メッセージ】コロナワクチン接種について（2021.06.18）
- 【学長メッセージ】コロナワクチン接種について（その2）（2021.06.25）
- 【学長メッセージ】間もなく始まる夏学期を前に（2021.07.13）
- 【学長メッセージ】8月17・18日の本学でのワクチン接種中止について（2021.07.30）
- 【学長メッセージ】東京外国語大学を支えて下さる皆様へ、学生へのご支援のお願い（2021.08.06）
- 【学長メッセージ】ワクチン接種「代替措置」に申し込まれた皆さんへ（2021.08.12）
- 【学長メッセージ】ワクチン接種「代替措置」に申し込まれた皆さんへ（その2）（2021.08.23）
- 【学長メッセージ】秋学期を前に（2021.09.13）

【学長メッセージ】 外語祭の成功を祈ります (2021.11.18)
【学長メッセージ】 秋学期の終了にあたり、皆さんへメッセージ (2022.01.14)
【学長メッセージ】 イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学の皆さん、そして本学で学んだウクライナの皆さんへ (2022.03.01)
【学長メッセージ】 新学期を前に (2022.03.24)
【学長メッセージ】 新入生の皆さんへ (2022.04.06)
【学長メッセージ】 夏学期を前に学生の皆さんへ (2022.07.12)
【学長メッセージ】 秋学期開始にあたり、学生の皆さんへ (2022.09.30)
【学長メッセージ】 秋学期の終わりにあたり、学生の皆さんへ (2023.01.25)
【学長メッセージ】 春学期の開始にあたり (2023.04.03)

【学長メッセージ】 日本へ入国できない新入生及び在学生の皆さんへ (2020.03.23)

◆海外から本学に入学する皆さんへ、

東京外国語大学は、学部と大学院に今年も、多くの新入生を海外から迎えます。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で、4月に日本に帰ることがむずかしい方々もいらっしゃると思います。

すでに、留学生課から皆さんに連絡をしているように、入学手続きを完了している皆さんは、日本にいなくても、4月1日から本学の学生です。

本学は、授業の開始を4月6日から4月20日に延期しました。追ってご連絡する指示にしたがい履修する科目を決めてください。4月20日以後についても、日本時間による遠隔授業などにより、母国にいても履修することができるようにします。

どうか安心して来日に備えてください。

◆海外から日本への再入国がむずかしくなった在学中の留学生（正規生）の皆さんへ、

事態の急変により、一時帰国した母国から日本に帰ることがむずかしくなっている方がいらっしゃると思います。

本学は、授業の開始を4月6日から4月20日に延期しました。大学からの指示に従い履修登録をしてください。4月20日以後の授業についても、日本時間による遠隔授業などにより、母国にいても履修することができるようにします。

以上のためには、本学と連絡が取れていることが必要です。どうか、留学生課や指導の教員と密に連絡をとってください。

事態が改善し、一日も早く日本へ再入国ができることを期待しています。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】在学生の皆さまへ（2020.04.03）

在学生の皆さんへ、

東京地域での新型コロナウイルス感染の拡大が深刻化しております。本学は、20日よりオンラインでの授業開始としておりますが、それにあたり、皆さんにお願いです。

- （1）現在、親元など、東京以外に留まっておられる方は、対面授業開始のアナウンスがあるまでは、是非、それぞれの地域に留まっていてください。
- （2）親元などを離れ、すでに本学周辺に住んでいる皆さんは、なるべく、このまま東京にとどまってください。
- （3）東京近郊にお住まいで、本学に電車通学される方は、可能な限り自宅に留まり、外出は控えてください。

皆さんの行動が、ご自身とご家族の健康を守ることをご理解いただければ幸いです。

なお、主に（2）の方を念頭に、ネット環境や機材の問題で、自宅でオンライン講義などを受けられない場合、本学構内で、分散の上、授業受講を認める予定です。可能なかぎり自宅にとどまっていたいただきたいところですが、やむを得ない場合の措置です。研究講義棟入口にて、番号証などをお渡しする予定にしていますが、詳細は追ってご連絡いたします。

オンライン授業には、主に ZOOM を使います。私たち教員は、今、にわかに ZOOM の勉強中です。実は、学生の皆さんの方がこういうことには強いかもしれない、と思ったりもします。困っている先生がいたら、ぜひ、サポートしてくださいね。

また、本緊急事態をうけ、本学の国際交流会館に入館を希望される方を募ります。急遽、留学を中断して帰国した方や、自宅のネットワーク環境に不安のある方などが対象です。詳しくは、こちらをご覧ください。

この局面において、私たち一人一人の行動が重要なことはいまでもありません。感染が終息し、一日も早くキャンパスで皆さんとあえることを楽しみにしています。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】オンライン授業延長のお知らせ（2020.04.07）

新型コロナウイルス感染の拡大が深刻化し、本日、東京都を含む地域に対し、国の緊急事態宣言が発表されました。この事態を踏まえ、東京外国語大学は、これまで5月9日までとしていた オンライン授業期間を、春学期が終了する7月17日まで延長いたします。この間のサークル活動なども、中止いただくようお願いいたします。

キャンパスでの授業が実施できないことは本当に残念ですが、言語文化学部、国際社会学部、国際日本学部、そして総合国際学研究科は、オンラインでの最善の教育の提供に努めてまいります。どうか、この期間を有効に過ごしてください。

なお、事態に改善が見られた場合には、繰り上げて、研究講義棟内での諸活動や、サークル活動などを再開する場合があります。引き続き、ホームページなどを通じたお知らせにご注意ください。

3月から4月の初旬に、派遣留学や休学留学を打ち切り、300人に近い学生が帰国しました。皆さんの無念を思うと本当に心が痛みます。しかし、日本にいた在学学生を含め、本学学生の皆さんが、落ち着いて行動してくださっていることに、大学として心から感謝しています。引き続き、一人一人の行動で、事態の終息に寄与してください。本当に困難な時期ですが、学生の皆さん、そして皆さんのご家族が、健康に過ごされることを祈っています。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】在学学生・新入生の皆さんへ、新学期に向けての注意（2020.04.13）

4月20日（月）からの授業開始を前に、本日より履修登録が始まりました。ここでは、新学期にむけての注意事項を整理します。ぜひ、チェックしてください。

（1）履修登録

今週4月13日（月）～17日（金）の間に第1回履修登録をしないと、4月20日（月）からのオンライン授業が受けられません。Zoomで行われる授業のミーティングIDは、第1回履修登録期間の登録者に対し、18日（土）から送られてきます。4月17日（金）までに、必ず履修登録を行ってください。新入生向けの履修登録解説ビデオは、以下に公開されています。

https://youtu.be/474rLr_DFoA

1回目の授業を受けたのち、変更を希望する場合は、2回目の履修登録を行ってください。3週目～4週目には修正ができます。このように、最初の4週間は登録者の変更がありうるため、ミーティングIDは複数回送られてきます。どうか混乱しないように、学務情報システムでよく確認してください。さらに、今年度に限り、6月1日（月）～3日（水）に履修中止期間が設けられました。この時点で履修を中止することができますが、追加の登録はできません。

<https://youtu.be/Qp3xQHRIvf8>

（2）授業に関する変更

授業のオンライン実施に伴い、一部の授業で開講学期の変更が生じています。以下のページを必ず確認するようお願いし

ます。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/education/180403_1.html

(3) 教科書販売

従来、生協で会員には10%引きで販売される教科書類ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、いつもと全く違うやり方となっています。1年生の専攻言語の教科書は今週末には、お手元に届きます。それ以外の教科の教科書類は、生協HPから注文をお願いします。一度に限り、送料大学生負担で郵送します。詳しくは生協のHPをご覧ください。

https://text.univ.coop/puk/START/tufs/entrance/entrance_29.html

(4) 研究講義棟内でのオンライン授業の受講

緊急事態宣言や東京都の外出自粛要請の趣旨を踏まえ、本学は、基本的に研究講義棟の一般利用を停止しています。ただし、近隣に居住し、かつオンライン授業の受講に支障のある方に限り入構を認めます。円形広場側の入り口近くで登録をし、3密を避け、指定された教室を使っていただきます。これに伴い、研究講義棟の入口は、円形広場側の一か所に限ります。

自身のノートパソコンなどを持参される方は、電源コードとイヤホンまたはヘッドフォンも忘れずにお持ちください。また、本体にカメラとマイクが内蔵されていることを確認して下さい。適した機器がない場合は、PC教室を利用いただけます。

(5) 図書館の利用

同じく、緊急事態宣言や東京都の自粛要請の趣旨、また職員・学生の健康を考え、本学は図書館の開館を予約による貸し出しに限りませ。また利用時間を短縮し、平日10時～12時、13時～15時といたします。当面は5月7日(木)までの措置ですが、延長もありえます。

その代りになるものとして、図書の郵送サービスが始まります。詳細は図書館のHPに詳細が掲載されているので、注意してください。

http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/news/2020/03/post_224.html

(6) 機器とネット環境

オンラインで授業を行うにあたり、新入生には3月30日～4月1日、2年生以上の学部在校生には4月3日から、所持する機器類やネット環境についてのアンケートが行われました。その結果を踏まえ、機器やネット環境の点で問題がある方には、本学のアカデミック・サポートセンターから個別に連絡をし、対応を講じています。

アンケートに答えなかった在校生の方、またアンケートの対象とならなかった大学院生のなかで相談がある方は、至急、次のメールアドレスに連絡してください。

[tufs-zoom-studentssupport\[at\]tufs.ac.jp](mailto:tufs-zoom-studentssupport[at]tufs.ac.jp) ([at]は@に変えて送信ください)

(7) 経済支援

新型コロナウイルス感染の拡大による急減な社会の変化をうけて、経済的な困難に直面している学生の皆さんを支援する動きが始まっています。まず、学生支援機構の募集が公開されています。

http://www.tufs.ac.jp/student/tuition_scholarship/exemption.html#Anc08

また本学独自の緊急貸し出しも行います。無利子貸し付けなので緊急避難が目的ですが、何らかのお役に立てば幸いです。詳細はこちらをご覧ください。

さらに生活上困ったことが生じた場合は、すぐに学生相談室に連絡してください。

学生相談室予約申込フォーム：<https://business.form-mailer.jp/fms/51acb6c485374>

(8) 新入生へのサポート活動

専攻語の上級生やサークルが、Twitter などでも新入生のいろいろな質問に答えて下さっているのを目にします。ほんとうにありがとう。さらに、有志による LINE を使ったサポート活動も始まったとの報告を受けています。LINE のアプリからオープンチャット、「TUFS 新入生向け情報共有」で、みつかるとです。こんな時期、学生同士で助け合ってくださいるのは何よりです。サポーターの皆さんに、心から感謝します。

唯一、心配なのは、学年により履修条件などが少しずつ、違っている点です。サポートにあたる上級生の皆さんには、ぜひ、1年生用の履修案内を見ておいていただくようお願いします。

言語文化学部 <http://www.tufs.ac.jp/education/lc/outline/example/>

国際社会学部 <http://www.tufs.ac.jp/education/ia/outline/example/>

国際日本学部 <http://www.tufs.ac.jp/education/js/outline/example/>

以上です。困難な日々が続きますが、どうか、健康に気を付けて暮らしてください。

東京外国語大学

【学長メッセージ】新学期を前に、学生の皆さんへ（2020.04.17）

新入生の皆さんには、すでに専攻語の教科書がお手元に届いている頃でしょうか。いよいよ来週から、オンラインでの授業が始まります。第一次履修登録期間が今日で終わり、今晚以降、登録した授業に関する連絡が、授業担当教員より皆さんの大学のアカウントに届きます。多くの授業を登録している場合には、ごちゃごちゃになるのでは、、、との心配もあります。下のビデオを参照に、よく整理してください。

・メッセージの確認方法

<https://www.youtube.com/watch?v=Qp3xQHRIvf8&feature=youtu.be>

・メールへの転送方法

<https://www.youtube.com/watch?v=P2nxXUtTD2M&feature=youtu.be>

なお、春学期の全部の授業が Zoom を使ってリアルタイムに行われるわけではありません。Moodle や学務情報システムのメッセージで、授業内容が通知される授業もあります。その場合は、通知の指示に従い、課題の提出などに努めてください。

困難な状況にありますが、普段の教室とはちがった、オンラインならではの有意義な授業となるよう、教員一同、工夫しています。いろいろな意味でちょっとドキドキですが、来週からの授業を楽しみにしてください。

さて、オンライン授業の実施にあたって、6点、お知らせとお願いです。

(1) 授業の案内は、履修登録した人にだけ届きます。必ず、本日 19 時 30 分までに履修登録を終わらせてください。

(2) 登録した授業についての連絡が、授業開始までに届かない、という場合などは、以下のフォームから問い合わせてください。調査の上、教務課等よりお返事します。

<https://forms.gle/U9Djj42AioommkWH7>

または

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSflA2DRerQcb3pTDuGGsCxZdRP-oPP9QejpwxpmlJNd48vrpA/viewform?usp=sf_link

(3) ネットワーク環境や機器に関することなどは、本学のアカデミック・サポート・センターにお問い合わせください。

Tel: 042-330-5893 (9時~17時、土日除く。祝日授業日は対応予定)

E-mail: [tufs-zoom-studentssupport\[at\]tufs.ac.jp](mailto:tufs-zoom-studentssupport@tufs.ac.jp) ([at]を@にかえて送信してください)

(4) Zoom での授業の途中でネット回線が切れたなどの場合には、授業の通知に記載のある先生の連絡先に連絡し、事情を説明してください。授業に応じた対応をとっていただけることになっています。

(5) Zoom で行われる授業でのビデオのオン・オフについての質問をいただいております。大人数の授業では、基本、ビデオはオフをお願いします(通信量の節約にもなります)。少人数の、語学やディスカッションを中心とした授業では、オンが基本になると思いますが、いずれにせよ、担当教員の指示に従ってください。

(6) 繰り返しお知らせしていますように、研究講義棟は、「大学の近くにお住まい(徒歩・自転車圏)」で、かつ「ネット環境や機器に問題がある」という方に限って入棟を認めています。円形広場側の入り口で手続きをし、指定の教室でオンライン授業を受講ください。

外出自粛が新型コロナウイルス感染拡大防止に必須な状況です。昨日、全国に緊急事態宣言も出されました。4月3日付のメッセージでお願いしているように、

- 親元などに留まっている方は、そのまま、そこに。
- 本学近くにお住まいの方は、親元などに戻ることなく、そのまま、そこに。
- 自宅から電車通学の方は、大学に来ないで、そのまま、そこに。

というのが、原則です。学生の皆さんにとって、自宅や下宿に留まることは、本当に大変だと思いますが、ご自身、またご家族の健康のため、引き続きご協力よろしくをお願いします。

とはいえ、来週からは、長時間、コンピュータの前で授業を受けることになり、結構、忙しくなるのではないかと思います。それに備え、ちょうどいい高さの机といすをさがしておいてくださいね。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】夏学期前半の授業、及び派遣留学について（2020.05.12）

本学は、7月17日の春学期終了までをオンライン授業期間としておりましたが、これを8月7日の夏学期前半まで延長することを決定しました。夏学期前半には13コマの集中講義が予定されておりますが、いずれもオンラインでの実施となります。詳細は、追ってご連絡します。

親元などに留まっておられる学生の皆さんは、引き続き、それぞれの地域でオンライン授業に取り組まれるよう、お願いいたします。これにともない、部活動についても、引き続き、学内外での活動の自粛要請が継続します。残念ですが、ご理解いただければ幸いです。

夏学期後半期、および秋学期以後については、現在、検討を進めておりますが、現時点でははっきりしたことをお伝えすることができません。大学としては、事態が改善し、対面授業が可能になることを切に願っております。その一方でオンラインによる授業の利点も、皆さんも感じておられるのではないのでしょうか。それぞれの長所をいかした教育体制を実現できればと考えていますが、いずれにせよ、東京地域での新型コロナウイルス感染拡大の鎮静化が条件となることから、発表まで、しばらくお時間をいただければ幸いです。

また、秋からの派遣留学に決まっている皆さんから心配の声を多数、いただいております。本学としては、今年度の派遣留学を全面的に中止することはいたしません。ただし、派遣には外務省による安全情報がレベル1になること、さらに、先方の協定大学が今年度、留学生の受け入れを行うことが条件となります。このため、世界の各地で、状況は違ってくるのが予測されます。どうか、留学生課と密に連絡をとり、情報収集に努めてください。

2020 年秋の派遣留学の取り扱いについて

勉強や暮らし、あるいは将来について、いろいろと不安なこともあろうかと思えます。大学の相談窓口を適切に利用いただき、不安の解消に努めていただければ幸いです。特に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で家計が急変した方は、以下のお知らせを確認いただくよう、お願いします。

http://www.tufs.ac.jp/student/tuition_scholarship/exemption.html#Anc09

毎日、パソコンの画面と向き合って、たいへんだらうと思います。暑さも増しています。どうか適度に休憩をし、無理をしないでください。ところで、大学では、ちょっとした息抜き用に、ということで、たふもにゆ組み立てモデルを公開しました。大学入口の、あのモニュメントを思い出して、ぜひ、チャレンジしてみてください。ただ・・・、組み立てるのは、結構、たいへんです。授業で忙しい時にはお勧めしません（笑）。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/200511_1.html

近く緊急事態宣言が解除される地域も出てくるとみられています。しかし、安心ができる状況ではないことは、ご承知の通りです。大学としては、オンラインによる最善の教育の提供に努めています。皆さん、ぜひ、がんばって取り組んでください。皆さんが、健康で有意義な日々を送ってくださることを祈っています。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】2020 年度に留学を予定されている皆さんへ（2020.06.02）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会全体に大きな影響がでています。今年度、派遣留学に決まっていた皆さん、あるいは、休学留学を予定していた皆さんにとっても、先が見えないつらい時間が続いていると思い、心が痛みます。迷っておられる方も多いと思います。改めて、本学の基本的な考え方をお伝えします。

以前からお伝えしているとおり、本学の留学実施への基本方針は、

- （1）外務省による危険情報・感染症危険情報がレベル1以下になること
- （2）留学先の協定校が留学生の受け入れを許可すること

の2点を満たせば、可とするというものです。

このうち（1）について、現時点では、世界中がレベル2以上です。そして、いつになればレベルが緩和されるのか、誰にも予測できません。そうした状況の中、大学としては、いずれ来るであろうレベル緩和に期待し、一律に派遣留学・休学留学を中止としておりません。このため、「いつまで待てばいいのか」や、「大学に決めてほしい」という質問も、大学に寄せられます。

しかし、本学は、この判断はご自身で行っていただくべきだと考えています。留学のチャンスは、皆さんの人生のなかで、そうあることではありません。上記の条件が満たされるのをギリギリまで待ちたいと考える人がいるでしょう。その一方

で、現在の状況を踏まえ、早めに断念し、次の計画に向かう人もいるでしょう。大学としては、留学のチャンスを最大限に確保しながら、可能な限りの情報を提供して皆さんの決断をサポートします。また、いずれの場合においても、履修上のサポートを行います。しかし、「いつまで待つか」を最終的に決めるのは、皆さん自身です。

ただし、決断の目安となるのは、留学準備にかかる時間です。ビザをとる、航空券をとる、住む場所を決めるなどには、通常、2か月程度は必要です。本学での履修を続けながら、「ぎりぎりまで待つ」という場合でも、最終リミットは、先方大学で来春までに開始される、先方が受入可能なプログラム（多くは、2021年2月頃に開始される学期）開始の1～2か月前でしょう。

なお、先方大学が派遣留学予定者にオンライン教育を提供する場合、本学は、本学の授業と並行しそれを受講すること、それを本学の単位に読み替えることなどを認めます。

実は、秋から本学に留学予定の交換留学予定者の皆さんも、同じ思いで、それぞれの国からの出国許可や日本政府のビザ発給開始を待っています。自分たちの努力ではどうすることもできないことであるだけに歯がゆい思いですが、なにより、感染症の拡大が沈静化し、一刻も早く世界の大学との学生交流が再開することを祈っています。

東京外国語大学長
林 佳世子

【学長メッセージ】緊急事態宣言解除後の対応について（2020.06.03）

5月26日に東京都の緊急事態宣言は解除され、一週間が過ぎました。しかし、再び感染者が増える懸念もあり、予断を許さない状況が続いています。

本学では、春学期、および夏学期前半の8月7日までのオンライン授業をこのまま継続いたします。東京地域以外にとどまっている皆さんは、引き続き、ご自宅等で学修を続けていただくようお願いします。ただし、2点ほど、今後の緩和に向け一歩を踏み出します。また、夏学期後半の予定と課外活動の再開にむけた手続きにつきお知らせいたします。

（1）附属図書館への入館再開

6月8日（月）から附属図書館への入館を再開します。当面は時短対応となりますので、図書館のホームページを確認ください。館内の閲覧席等は利用できませんが、貸出、複写は、可能です。なお、宅配による貸し出しサービスを継続します（送付の際の送料は大学で負担です）。大学近郊にお住まいの方以外は、引き続き、こちらをご利用ください。

附属図書館の段階的サービス再開について

http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/news/2020/06/post_228.html

(2) 大学院研究室の開室

大学院生の研究を支援する観点から、6月8日(月)より大学院研究室の一部開室を行います。窓があり、換気のできる401-D室をご利用ください。開室時間は、8:00~18:00です。研究講義棟の入り口での受付を行った上で、研究室を利用いただくようお願いします。

(3) 夏学期後半(8月31日~9月29日)の集中講義

夏学期後半の集中講義は、引き続き、オンラインでの実施を基本とします。ただし、教職科目など、対面で実施する必要のある授業については、十分な対策を講じた上で、キャンパス内で行います。授業のリストやスケジュールは6月中旬に発表します。教室で行う授業については、履修者数に制限を設ける場合があります。オンラインで行う授業については、受講希望者全員が履修することができます。以上にともない、夏学期の履修登録の日程が変更になります。教務課からのお知らせに注意してください。

(4) 課外活動について

オンライン授業期間である夏学期前半までは、引き続き、学内外での課外活動の自粛をお願いします。その後については、以下のスケジュールに従い、活動再開の可否を判断する予定です。

- 1) まもなく発表される大学からの指針をよく確認ください。
- 2) 団体ごとに感染拡大予防の対策をまとめ、学生課に活動開始の申請をしていただきます。申請用紙は、追って関係団体に配布します。
- 3) 申請を確認し、十分な対策が取られていると判断される場合には、夏学期後半の授業期間から活動を認める予定です。ただし、夏学期中は合宿などの活動は自粛下さい。

以上の手順を踏む理由は、課外活動の内容・様態などがさまざまであるためです。まずは、皆さん自身で、コロナ感染予防に対しどのような対策がとれるか検討してください。また参加を望まないメンバーに参加を強制することがないように、くれぐれもご注意ください。メンバー間の合意の上で大学に活動再開の申請をするよう、お願いします。

本件についての学生課からのお知らせに注意してください。

(5) オンライン授業アンケートについて

6月10日を締め切りに、オンライン授業についてのアンケートを実施しています。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdAq8KS1HTIHuXiSaminMDwZJt3zvjjzeNP0ekLn-8AWo3xg/viewform?usp=sf_link

まだ、途中経過ですが、意見や要望だけでなく、先生方を励ます言葉も多数いただき、うれしいです。曰く、「はじめ焦ったり、困っていた先生方が、ついに今ではバーチャル背景で波打ち際の動画を流し鮮やかに使いこなされているのを見て、さすが大学教授…と思いました」とか……。皆さんに褒めてもらえるよう、がんばります……。もちろん、大事なものは、皆さんから寄せられた具体的な要望にこたえていくこと、そして、これからのことです。今後については、一日も早い教室授業再開を願う声がある一方で、オンラインの継続を希望する声もありました。私たちも毎日、この問題を考えています。

With Corona / After Corona の時代、大学の姿が大きく変わっていくことは間違いありません。今回の経験を踏まえ、東京外大の教育がよりよいものになっていくよう、努めて行きたいと思います。

アンケートはまだ間に合います。どうぞ、自由な意見をお寄せください。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】秋学期の暫定的な予定について（2020.07.08）

皆さん、元気でお過ごしでしょうか。春学期もいよいよ最終週が近づいてきました。まだまだ、これからレポートや試験が大変だと思いますが、どうかがんばってください。

さて、本日は、10月から始まる秋学期について、暫定的な予定をお知らせします。秋学期、もし東京地域におけるコロナ感染症の状況が許すのであれば、本学は、オンラインを基本としつつ、一部科目はキャンパスにおいて対面で行うことを予定しています。

10月に「東京地域におけるコロナ感染症の状況が許す」かどうかは、正直言って現時点ではわかりません。危険な状態で対面の授業はできませんが、危険かどうかの判断は大変難しいのが事実です。緊急事態宣言が再び発出されるなどを判断材料にしていくしかないでしょう。最終的に予定通りに行うか否かは9月2日を目的に決定します。状況が悪化している場合には対面の授業は中止し、全授業をオンラインで行います。また、いったん対面授業を開始したのちも、同様の対応を取ります。

そして、もし東京地域におけるコロナ感染症の状況が許すなら、次の科目群の一部を対面で行うことを予定しています。詳しくは、ホームページ「秋・冬学期 教務関連まとめ」をご覧ください。

専攻言語科目：ホームページにあるとおり対面・オンラインの授業計画を立てています。

GLIP 英語科目：月、火、木、金の英語 A/B の授業は対面となります。

3年次の演習科目、4年次の卒業論文演習科目：指導教員の先生から指示があります。

ラッシュアワーを避けるため1限はなるべくオンラインに、対面の授業はなるべく連続するように、という調整をしていますが、なかなか難しい場合もあります。対面授業のために来校した場合に、オンライン授業を学内で受けられるよう

準備をしています。自宅での学習については、春学期に引き続き、ネット接続に問題のある方へのサポートを行います。

専攻語の履修の多い言語文化学部・国際社会学部の1年生・2年生は、キャンパスでの対面授業が比較的多くなります。東京近郊以外に在住の方は、適当な時期に引越するなどし、10月からの授業に備えていただければ幸いです。国際日本学部の1、2年生については、GLIP 英語の授業が対面となります。大学院の科目については、異分野交流ゼミなどの一部科目がオンラインとなります。

以上、「東京地域におけるコロナ感染症の状況が許すなら」という条件つきのお知らせとなりますが、ご理解いただければ幸いです。学生の皆さんから、「オンライン教育も悪くない」という声を聞き、ほっとしているところですが、人と人の出会いが大学にとって重要であることも忘れることはできません。皆さんが有意義な大学生活を送れるよう、先生方も職員の皆さんもがんばって準備を進めています。今後のお知らせに注意していただければ幸いです。

なお、キャンパスでの授業受講が難しい方、特にGLIP英語科目をオンラインで受講することを希望する方については、以下のフォームでご連絡をお願いします。追って、大学より連絡をいたします。

連絡フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfMDstq--b2rEPPnsUcEPLsS8XRKkIND8_pO506iDt_2H0UCw/viewform?usp=sf_link

どうぞよろしくをお願いします。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】2020年度秋学期について（2020.08.25）

在学生の皆さんへ、

暑い日が続きますが、皆さん、お元気でしょうか。皆さんへの連絡は、7月8日以来となります。7月8日には、秋学期について「暫定的な予定」を発表し、次の連絡は9月2日を目途に行うとしておりましたが、秋に向け、東京地域における感染状況に大きな変化がないと推測できる状況となりましたので、予定を早め、本日、秋学期の予定をお知らせします。どうか、注意して読んでいただき、秋学期に備えてくださるよう、お願いします。

1) 感染防止対策

本学は、下記の感染防止対策を取ることをお約束します。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/200807_1.html

2) オンライン授業と対面授業

本学は、秋学期にオンラインと対面の混合で授業を実施します。対面で行う授業は、専攻言語科目の一部と GLIP 英語科目の一部、及び演習科目・卒業演習科目・大学院科目の一部です。それ以外の科目はすべて、オンラインで実施します。時間割を組むにあたっては、対面授業をまず決めた上で、通学時間等を考えてオンラインで行われる授業を選択してください。オンライン授業は、春学期同様、Zoom による同時配信型を基本としますが、一部の授業は曜日・時限に関わらないオンデマンド型で行われますので注意してください。

一部の授業が対面で行われる科目群は次の通りです。

- ・ 1 年生の専攻言語（必修）
http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/senkogengo1_2020a.pdf
- ・ 2 年生の専攻言語（必修）
http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/senkogengo2_2020a.pdf
- ・ 3・4 年生の専攻言語（選択）
http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/senkogengo3_2020a.pdf
- ・ GLIP 英語 A（選択。ただし春学期と同一科目の履修が原則）
http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/glip_A.pdf
- ・ GLIP 英語 B（選択）
http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/glip_B.pdf
- ・ 演習科目（必修）、卒業演習科目（必修）：指導教員や担当教員にお問い合わせください。
- ・ 大学院の授業科目：現在、調整中です。しばらくお待ちください。

なお、東京地域の感染状況が大きく悪化した場合などには、見直しを行い、対面授業をオンライン授業へ切り替えます。

3) オンライン授業を大学で受講する場合

時間割の都合上、大学で Zoom 型の授業を履修しなくてはならない場合が出てくるかと思えます。その場合は、以下の教室で Zoom によるオンライン授業を受講してください。新設の専用回線を利用いただけます。

研究講義棟

101/102/103/107/108/109/

113/114/115/226/227

これらの教室での受講にあたっては、各自、自分のノートパソコンなどの機器、およびヘッドセットをご持参ください。貸し出し用のタブレットやヘッドセットも用意しますが、数に限りがあり、いつも用意できるとは限りません。また、感

染防止の観点からも、共用はなるべく避けたいところです。

また、以下の PC 教室は、オンライン授業の履修やその他の自習に開放します（一部の時限を除く）。

PC 教室等

205/206/216/217/AV ライブラリー

4) 対面授業の履修が難しい学生の皆さんへ

とはいえ、様々な理由で対面授業を難しいと感じられる方がおられるのは無理のないところです。基礎疾患がある、ご家族に高齢の方がいらっしゃるという場合は、特にそうだろうと思います。そういう場合は、以下のページにある指示に従い、9月4までに「在宅受講希望届け」を提出ください。GLIP 英語 A について、対面からオンラインへの変更を希望される場合も、この届けにより申請してください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/education/200821_1.html

5) 遠距離通学の方へ

また、東京地域に在住でも長距離の通学に時間がかかり不安を感じる方もいらっしゃると思います。希望される方には、国際交流会館 3 号館への入居を案内しています。以下の特別募集をご利用ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/dorm/apart.html>

6) WiFi ルーターなどの貸出

春学期に続き、オンライン授業の受講に困難のある方に対し、タブレットや WiFi ルーターの貸出しを行います。こちらは、アカデミック・サポートセンターが窓口になります。9月初旬に申し込み方法などを連絡いたしますので、ご注意ください。ただし、数に限りがあります。どうかお住まいの場所でのネットワーク環境の整備に努めてください。

連絡先：tufs-zoom-studentssupport[at]tufs.ac.jp

7) 履修登録・修正期間、および、Zoom ID/PW の連絡など

秋学期の履修登録・修正期間は、次のように変更になっています。

- ・履修登録期間：9月17日（木）～9月24日（木）
- ・履修登録修正期間：10月1日（木）～10月14日（水）
- ・履修中止期間；11月12日（木）～11月13日（金）

Zoom 授業の ID/PW、Moodle や Google Classroom の授業コードの連絡は、春学期とは異なり、学務情報システムに

表示されるご自身の時間割の「お知らせ」から確認する仕組みとなります。使い方は、追ってお知らせします。

8) サークル活動

各サークルから提出された活動方針や感染防止策などを、学内の委員会で審査・点検し、一部サークルの8月31日からの活動再開が認められました。心待ちにされている方は多いと思いますが、心配な気持ちがないとはいえません。どうか、大学が示している「サークル活動に関する指針」、学生課やサークル団体の連合組織（文サ連・体団協）からの連絡、および自分たちで立てた計画や対策をきちんと守り、安全第一で活動してください。

9) 図書館の利用について

夏学期は、10時から15時までの間、開館しています。秋学期の開館時間は10時～17時となり、館内での学習も可能になります。詳しくは、図書館のホームページで確認ください。

10) コロナ禍のもと、困ったな、変だな、と思ったら、以下の相談窓口をぜひご利用ください

- ・授業の履修一般についての質問

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSflA2DRerQcb3pTDuGGsCxZdRP-oPP9QejpgwpxpmIJNd48vrpA/viewform>

- ・Zoom のアクセスや機器の貸出しなどについての質問

tufs-zoom-studentssupport@tufs.ac.jp

TEL : 042-330-5893

- ・経済的な問題や奨学金についての質問

<https://business.form-mailer.jp/fms/56c37f09119375>

- ・健康相談

保健管理センター TEL : 042-330-5435

hoken-center@tufs.ac.jp

- ・生活上・心の悩みに関する相談

学生相談室 TEL : 042-330-5560

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/sccs/>

- ・感染の疑いなどから、PCR 検査を受けた場合には、こちらへ連絡

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

- ・どこに連絡していいかわからない場合は、とりあえずこちらへ

tufs_2020autumn_support@tufs.ac.jp

以上が、秋学期についてのアウトラインです。それぞれについて、詳しくは、教務課や学生課から連絡が行われますので、

大学のメールアドレスのチェックや、学務情報システム、大学ホームページなどの確認を怠らないよう、よろしくお願いします。

どこにいても、だれであっても感染する危険のある状況がつづいています。大学として、秋学期に向け不安がないといえ、うそになります。しかし、できるだけの対策をして、「新しい大学の日常」へ一歩を踏み出すことが必要だと考えています。まもなく始まるサークル活動はひとつの試金石です。大学として皆さんの活動をできるだけサポートをしていきますので、皆さん自身も、感染を招くような行動をとらないよう、切にお願いします。新型コロナウイルスとともに生きていく道を、一緒に探していきましょう。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】 いよいよ秋学期が始まります (2020.09.28)

在学生の皆さんへ、

10月1日を前に、皆さんにメッセージです。いよいよ秋学期が始まります。特に1年生の皆さんの中には受験以来の来校、という方も多いかと思えます。すでにご覧になっているかと思いますが、「秋学期、東京外大の歩き方」を用意しました。無事、教室にたどりついて（笑）、授業が受けられることを願っています。

<http://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/tufsfeatured/20092801/>

ただ、私どもとしても新型コロナウイルスへの心配は尽きません。体温チェックや手洗いの励行、昼食時の密集対策などをお願いします。特に注意をお願いしたいのは、学内外での会食です。他大学や諸外国の例でも、クラスターの発生源は、授業ではなくパーティやコンパと報告されています。「禁止」という言葉を大学生の皆さんに使いたくはありませんが、どうか節度を守って行動くださるようお願いします。

本学の学部授業における対面授業の割合は、全体では27%です。1年生の専攻言語科目の開講コマ数の48%、2年生の専攻言語科目の43%が対面です。特に1年生については、専攻言語が全面オンラインとならないように調整しましたが、一部の専攻言語では諸般の事情で対面授業の開講が叶わず、残念に思っています。一方で、一部の学生の皆さんからは対面形式で実施される専攻言語科目の「在宅受講希望」が提出されました。その希望には対面授業のオンライン配信などの形で対応します。今後も、皆さんの健康と学修機会確保のバランスに配慮しつつ、できる限りの対策を講じていく予定です。

本年度海外留学を予定していた皆さん。政府の方針で海外からの留学生の来日は始まりましたが、日本人の渡航については依然、「危険レベル」が下がらず、多くの皆さんは秋学期、本学での履修をスタートさせるものと思います。結局、大学としてできることは多くなかったことに対し、申し訳ない気持ちでいっぱいです。この事態をうけ方向転換をする皆さんが、気持ちを切り替えて、新しい目標に向かってくださることを祈っています。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/study_abroad/200512_1.html

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/study_abroad/200915_1.html

最後に、卒業を目指している4年生の皆さんにお知らせです。3月末に予定している卒業式は、今後感染状況が大きく悪化することがなければ、教室に分散するなどの工夫をした上で、キャンパスで実施する方針です。無事、その日が迎えられるよう、最後の学期、どうかがんばってください。

対面授業の本格的な開始により、大学としても秋学期は新しいチャレンジの学期となります。オンラインによる外語祭など、学生の皆さんのチャレンジに対しても、できる限り応援していきたいと思っております。まだまだ困難な時期が続きますが、皆さんが、健康で、有意義なキャンパスライフを過ごしてくださることを心から祈っています。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】緊急事態宣言の発表に際して（2021.01.07）

秋学期の終わりまであと僅かとなるなか、緊急事態宣言が再び発表される事態となり、心配されている方も多いのではないかと思います。本宣言に対して本学は次のように対応します。併せて学生の皆さんには、今いっそうの感染対策をお願いする次第です。

（1）授業・試験

1月18日までの対面とオンラインによる秋学期の授業、および25日までの期末試験は、基本的には予定通り実施します。ただし、状況を見つつ先生方の指示で対面授業がオンラインに切り替わる場合もありますので、担当教員からの連絡に注意してください。

1月26日から始まる冬学期の集中講義は、1つの授業を除きオンラインで行われます。研究講義棟のZoom教室は引き続き利用可能です。

（2）サークル等の課外活動

サークル等の活動については、緊急事態宣言が発出されている間、一時的に活動の停止をお願いします。2月8日には活動再開となるよう、この間はどうか感染拡大防止にご協力ください。各団体には、再開後に感染防止対策がどのように強化できるかも、改めて検討していただきたいと思っております。

（3）大学施設の利用

附属図書館や大学院生研究室は、緊急事態宣言発出後も、すでに公表されている開室時間を維持します。

大学生協については、時短の上、営業を継続すると聞いています。

（4）感染予防のための行動を

マスクの着用、手洗い、三密回避が、大原則です。

特に、感染リスクが高まるといわれる5つの場面、すなわち、

「飲酒を伴う懇親会等」

「大人数や長時間におよぶ飲食」

「マスクなしでの会話」

「狭い空間での共同生活」

「居場所の切り替わり」

を避けるよう、くれぐれも注意してください (<https://corona.go.jp/>)。なかでも、「大人数や長時間におよぶ飲食」がいかに危険かは、数々の感染拡大例が示しています。大人数の定義は一応5名以上とされていますが、それが便宜的なものであることは言うまでもありません。自身の感染を防ぐため、そして、周りの人を守るため、どうか、今は友達との会食・飲食を我慢いただくよう、お願いします。

(5) コロナ感染の疑いがあるときは一報を

すでにご存じかと思いますが、「体調に異常がある」、「発熱がある」、「PCR 検査を受けた」、「保健所から濃厚接触者との連絡をうけた」・・・といった場合は、大学にご一報ください。

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

状況に応じ公欠の措置などをご案内します。また、学内での拡大防止の対応のためにも必要です。ご理解とご協力、よろしくをお願いします。

また、身の回りで困っていることがある時は、次の総合案内を参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/>

(6) 最後に・・・

東京を中心とする首都圏での感染の拡大を受け、本学の学生の中からも、年末から昨日までに5名の感染の報告がありました。重篤な状況ではないと聞きほっとしていますが、感染した皆さんの1日も早い回復を祈っています。

感染拡大に歯止めをかけるには、皆の協力が必要です。首都圏地域の状況が改善し、1日も早く正常なキャンパスライフが取り戻せるよう、力を合わせていきましょう。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】来年度の予定など (2021.02.02)

東京都の感染状況は下方傾向にあり多少の光も見えますが、政府による10都府県への緊急事態宣言が延長されました。引き続き、慎重な行動が必要な状況が続いていますので、どうか注意の上、元気に過ごして下さい。

さて、本日は、4件、ご連絡です。

(1)

繰り返しのお願いになりますが、体調不良の場合、濃厚接触者と特定された場合、PCR 検査を受けた場合などには、大学にご一報ください。

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

現在までのところ、本学関係で感染された方の数は 15 名との報告を受けています（学生 14 名、教員 1 名）。うち、10 名が 12 月～1 月に判明した方です。いずれも学内での活動歴はありませんでした。

(2)

東京都への緊急事態宣言の延長に伴い、現在のサークル活動の自粛は延長せざるを得ません。ご理解いただくようお願いいたします。ただし、現在も大学の施設は開放しています。学生の皆さんが利用できる場所は、研究講義棟（Zoom 受講教室など）、図書館、生協です。十分な体調管理の上、来校してください。

(3)

2021 年度の新学期の授業開始は 4 月 12 日（月）を予定しています。シラバスの公開は、2 月中旬になります。

(4)

4 月からの授業は、一部をオンライン、一部を対面で行う予定です。原則として対面の時間帯とオンライン授業の時間帯を、以下のように区分けします。これまでの 1 限～5 限に加え、オンライン授業には 6 限（17：40～19：10）が加わります。

《オンライン時間帯：授業の多くがオンラインで行われます》

月曜 1 限、6 限

火曜 6 限

水曜 1 限、2 限、3 限、4 限、5 限、6 限

木曜 1 限、6 限

金曜 1 限、6 限

《対面時間帯：授業の多くが対面で行われます》

月曜 3 限、4 限、5 限

火曜 3 限、4 限、5 限

木曜 3 限、4 限、5 限

金曜 3 限、4 限、5 限

《オンライン・対面混合時間帯》

月曜 2 限

火曜 1 限、2 限

木曜 2限

金曜 2限

この他、海外との共同授業などには7限（19：20～20：50）も使います。以上のように時間帯をわけることで、本学は対面とオンラインが混ざった授業を円滑に行うことを目指しています。現在の予定では、対面授業の割合は60～65%程度となることを見込まれています。

2020年、新型コロナウイルス感染症への対応から授業形態にオンラインが加わり、教育が大きく変わりました。オンラインによる教育にメリットが多々あることは疑いありません。特に、海外と結んだ授業展開などでは無限の可能性が広がっています。しかし、皆さんが、未来の世界で、人と人のコミュニケーションを支える人間になっていくのだという点を考えると、本学の教育をオンラインだけで完結することはできません。4月から、本学は「対面とオンラインの適切な配分」により、新しい可能性を更に広げていきたいと考えています。もちろん、新型コロナウイルス感染の状況を見守りながら最終的な決定は行いますが、春には、昨年の秋学期よりも頻繁に本学のキャンパスで皆さんと会えることを期待しています。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】新学期にあたり・・・(2021.04.02)

桜が舞うなかで、新年度を迎えました。すでに「在校生の方へ」のページや学務情報システムでお知らせしていることと重複しますが、春学期・夏学期のことに、以下にまとめて、お知らせ・お願いです。

1. 時間割を組むにあたって

春学期の授業は、全開講数の65%が対面、35%がオンラインで行われます。履修科目を決めるにあたっては、オンラインと対面を適切に組み合わせた時間割を組んでいただくよう、お願いします。オンラインの授業は大学構内でも受講できますが、ご自宅での受講を推奨しています。シラバス検索では「授業開講形態」の項目で、対面かオンラインかの別がわかるようになっています。

新入生の皆さんへの履修に関する詳しい説明は、来週のオリエンテーションで行われます。

2. 履修登録

春学期の履修登録は4月8日（木）から始まります。対面で行われる授業と教養外国語の授業については、教室等の調整が必要なため、登録期間が短くなっています。ご注意ください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/education/210401_1.html

オンライン授業用のZoomのID/パスコードは、履修登録後に、学務情報システムの「お知らせ」から入手できます。

・2021年度春学期 授業リンクの共有方法

3. 授業についての情報・サポート情報

授業に関する情報は、以下に詳しく載っていますので、是非、ご一読ください。

http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/2021tufsedu_spr.html

特に、Zoom や Moodle、Google Classroom の使い方などは、サポート動画が便利です。(一部、2020 年となっているものがありますが、2021 年度も使い方に変更はありません)。

http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/zoomsupport.html

4. 授業に関するお問い合わせなど

以下の授業関連問い合わせフォームよりお問い合わせください。追ってお返事いたします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSflA2DReRqcb3pTDuGGsCxZdRP-oPP9QejpwxpmlJNd48vrpA/viewform>

また、各種の学生相談は、こちらをご参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/>

5. 夏学期のショートビジットの中止について

世界中で感染状況が依然として厳しく、夏までの終息は期待できそうにありません。何とか実施できないかと、事態を注視してまいりましたが、好転が望めないことから、本学は、夏学期の現地渡航を伴うショートビジットプログラムの実施を断念いたしました。本当に残念です。代替措置として、オンラインによるプログラムを提供しますので、ぜひ参加をご検討ください。冬学期には現地渡航が可能な状況になることを祈っています。

<http://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/shortvisit/>

6. 感染対策の徹底を

ご存知の通り、再び東京地域の新規感染者数に増加が見られます。感染拡大の防止は私たちの行動にかかっていることから、重ねてのお願いです。

特に飲食時の注意が不可欠です。また、アルバイト先での感染例も多いことから、事業者の感染予防対策を十分確認し、危険な場所でのアルバイトは避けてくださるようお願いいたします。みなさん、十分注意の上、どうか健康に過ごしてください。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】まん延防止等重点措置の適用を受け (2021.04.12)

学生の皆さんへ、

本日から新学期が始まりますが、同時に、本日から1か月間の「まん延防止等重点措置」が東京都府中市にも適用されることになりました。本学では、10月以来、学内での感染事例はありません。学生の皆さんが、大学の出す指示やお願いに従い、注意深く行動してくれた結果だと思えます。心から感謝しています。

「まん延防止等重点措置」下において、本学は、感染防止策をさらに徹底し、対面とオンラインの混合授業形態を維持して行く方針です。また、サークル活動などについても、感染防止策をより強化しつつ、認めていきたいと考えています。ただし、これを実現するには、今まで以上の注意が必要です。

新年度を迎える際の課外活動について

どうか、これまで培ってきた「新しい習慣」、すなわち、マスクの着用、手洗い・消毒、三密の回避、黙食などを守り、大人数での会食や危険な場所でのアルバイトをしないよう、くれぐれもお願いします。その一方、現在の状況下では、いくら注意しても感染の可能性をゼロにはできません。少しでも体調が悪い場合には自宅にとどまり、PCR検査などを受けた時には、かならず下記フォームにより大学に一報下さい。クラスター発生を未然に防ぐことが何より大事です。皆さんの協力を、心からお願いする次第です。

連絡フォーム

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】ゴールデンウィーク前後の感染対策について（2021.04.22）

学生の皆さんへ

新型コロナウイルス感染の再拡大が続いています。この事態を受け、本学ではゴールデンウィークの前後に以下の対策を講じます。

(1)

4月29日（木、祝日授業日）、30日（金）、5月6日（木）、7日（金）の4日間、対面授業を取りやめます。現在、対面で行われている授業は、オンラインで実施することになります。担当教員の指示に従ってください。

授業についての質問は、以下にお寄せください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSflA2DRerQcb3pTDuGGsCxZdRP-oPP9QejpwxpmlJNd48vrpA/viewform>

(2)

課外活動等については、以下に掲示する指示に従ってください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/210407_1.html

(3)

この間、研究講義棟、図書館などは、通常通り開いています。オンラインの授業を研究講義棟内で受講することは可能です。

(4)

5月10日（月）からは、対面授業とオンライン授業の混在の形に戻します。（5月7日更新）

(5)

大人数での飲食・会食は行わないなど、感染防止のための注意を守るよう改めてお願いします。

しばらく我慢をすることで、その先に展望が開けることを祈っています。皆さんの協力をお願いする次第です。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】今年度、長期留学を予定している皆さんへ（2021.05.26）

新型コロナウイルス感染症の拡大が続くなか、本学は、派遣留学を予定している皆さんに対して、

- (1) 派遣留学先の国・地域が日本からの入国を制限していないこと、
- (2) 派遣留学先協定校が留学生受け入れプログラムを実施していること、
- (3) 派遣留学先の国・地域の海外安全情報の危険レベル及び感染症危険レベルが共にレベル1以下であること、

以上3点を現地渡航の条件とし、その可否についてプログラム開始約3か月前に判断することとしています（→詳細http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/study_abroad/210311_1.html）。また、派遣留学以外の休学留学・自由留学についてもこれに準じて判断をお願いしています。

日本国政府が、感染症危険レベルを世界全域でレベル3、またはレベル2と判断している中、事実上すべての留学がストップしています。5月中旬には、変異株の拡大の影響で、これまでレベル2であった複数の国がレベル3に引き上げられました。国内各地でも厳しい状況が続いています。人の自由な往来の復活にはまだ時間がかかると予測されます。しかしその一方で、ワクチン接種の進捗により、光も見えてきました。国外ではワクチン接種が進んだ結果、人の移動を再開させつつある国もありますし、国内でもワクチン接種が加速化しつつあります。

こうした状況の中、8月後半～9月にかけて始まる海外大学への派遣留学の可否を決める「3か月前」が迫っており、派

遣留学予定者の皆さんの心配な思いに心が痛みます。残念ながら、ワクチン接種による事態の改善も、8月後半～9月の第一学期のための渡航までには難しいと判断せざるをえません。大学生の皆さんにワクチン接種の機会がまわってきて、1回目の接種から十分な抗体ができるまでには概ね6週間かかるためです。政府によるレベル引き下げの兆候もみえません。

しかしながら、2022年1月～2月に始まる海外大学の第二学期までには、少なくともワクチン接種の拡充による事態の改善は見込めるのではないかと考えています。このため、2022年1月以降の留学について、本学は、感染症危険レベルによらず、ワクチン接種の完了により留学の可否を決める方向で、要件の変更を予定しています。変更後の要件の骨子は以下の通りです。

- (1) 派遣留学先の国・地域が日本からの入国を制限していないこと [変更なし]
- (2) 派遣留学先協定校が留学生受け入れプログラムを実施していること [変更なし]
- (3) ワクチン接種を済ませ、抗体のできるまでの期間を満了していること [新規]
- (4) 派遣留学先の国・地域の海外安全情報の危険レベルがレベル1以下であること(新型コロナウイルスを起因とする感染症危険レベルは問いません) [変更]

以上を踏まえ、現在、8月～9月からの派遣留学を予定されている皆さんには、当面は延期し、2022年1～2月から半年間の留学を選択肢として考えていただきたいと思います。秋からの留学に向け準備をされてきた皆さんに対し、こうした提案をすることは断腸の思いですが、「プログラム開始3か月前」の期限を迫る今、以上の見通しをもって準備をしていただきたいと思います。なお、現地渡航の際に必要な手続きや書類については、改めてお知らせいたします。休学留学・自由留学の要件も、原則として上記の条件と同様とする予定です。

とはいえ、2022年1月からの留学についても、問題がないわけではありません。まず、派遣留学予定の多くの方が採用されている日本学生支援機構(JASSO)の奨学金については、現時点では支給要件に変更がなく、感染症危険レベル2以上の場合、支給されない見込みです。また、留学先の医療状況はさまざまであり、ワクチン接種を済ませたのちに渡航したとしても、変異株の状況などをみると不安は尽きません。現地の医療状況について十分に調査し、また、ご家族・保護者の方ともよく話し合ってお判断いただきたいと思います。

留学を夢見て、そのために準備をしてきた皆さんの思いは、痛いほどわかります。一刻も早い出発を願う気持ちは同じです。しかし、入国に際しワクチン接種証明を求める国は、今後増えていくとみられています。また、ワクチン未接種の場合、実際の感染への懸念も拭えません。どうか「来年1月からの留学」いう選択肢に向け、前向きに考えていただくようお願いする次第です。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】留学を予定している皆さんへ(2021.06.10、2021.06.11 追記)

5月26日の学長メッセージでもお伝えしたとおり、新型コロナワクチン接種の拡充により留学をめぐる状況が好転しつつあります。

先般、大学を職域接種の会場とする方針が政府より提案されましたが、本学では、まずは、この夏以降に留学を予定している皆さんを対象に、先行的にワクチン接種ができないか検討しています。つきましては、長期留学（1学期間以上の留学。派遣留学、休学しての留学、長期インターンシップ）を計画している方で接種を希望される方は、以下のフォームより登録してください。

詳細が決まり次第、登録いただいた方に対し改めて連絡をいたします。

※回答フォームの対象を大学のアカウント限定にしてあります。大学のアカウントでGoogleにログインした上でご回答下さい。

・回答フォーム

【回答期限：2021年6月15日（火）17時まで】

なお、本アンケートは、ワクチンの先行接種の希望を確認するもので、接種を確約するものではありません。

また、ワクチン接種は義務的なものではありません。ただ、留学には必要となることが予想されており、推奨します。

どうぞよろしく願いいたします。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】コロナワクチン接種について（2021.06.18）

学生の皆さんへ、

暑い日が続きますが、皆さん、お元気ですか。なかなか去らないコロナ禍ですが、ワクチン接種の拡大で光も見えてみました。それに関連し、以下、3点ご連絡いたします。

1. コロナワクチン接種の先行実施

新型コロナワクチン・大学拠点接種について調整を進めておりましたが、すでにご連絡していますように、留学予定者を対象とした先行接種を7月6日（第1回接種）と8月3日（第2回接種）に実施することになりました。登録された方々には個別に連絡をしておりますので、どうぞ連絡に注意ください。

この先行接種の人数につき、追加ができることになりました。募集人数は400名です（先着順）。来週の6月22日（火）朝6時より追加の受付を行いますので、以下のページを読み、希望する方は準備をしておいてください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/210618_1.html

この接種は、4大学連合で一緒している東京医科歯科大学のご協力により可能になりました。また、先行接種の日には、東京工業大学、一橋大学の留学予定者の皆さんも一緒に接種を行います。大学間の協力でこうした取り組みが可能になり、とてもうれしく思います。

2. コロナワクチン接種の全学実施

続いて、本学の全構成員の方を対象に、以下の日程で接種を実施することになりました。こちらも、東京医科歯科大学のご協力により実施されます。

第1回接種：8月17日（火）、18日（水）、19日（木）

第2回接種：9月14日（火）、15日（水）、16日（木）

申し込みは、6月28日（月）から受け付けます。詳しい情報は、後日ご案内します。

なお、接種の機会そのものは、自治体によるもの、大規模接種会場によるものなど、多様化しつつあり、若い皆さんへの接種の機会も拡大しつつあります。お住まいの地域の自治体の情報などについて十分情報を集めていただき、そのうえで、大学での接種を希望する場合に限り、申し込んでいただくよう、切にお願いします。各所で問題になっているように、キャンセルがでるとワクチンが無駄になります。他の会場での接種の可能性のある場合は、是非そちらを利用いただき、大学での接種を申し込んだ場合は、変更のないよう、どうぞよろしくお願いいたします。また、接種は希望者に対してのみ行うものです。ご自身の判断で申し込んでください。

3. 今年度の長期留学について

5月26日のメッセージでは、ワクチン接種を済ませれば、感染症レベルによらず留学を可とする方針をお示ししました。ただ、ワクチン接種がこれほど早く実現するとは予期できず、派遣留学については、その適応を2022年1月以後として発表いたしました。

しかしその後、事態が大きく変わり、ワクチン接種の可能性がひらけてきました。また文部科学省も、秋からの留学を後押しする対応を発表しています。日本学生支援機構 JASSO による奨学金についても再開の見通しとなっています。

以上をうけ、本学も派遣留学の可否に関する基準を、以下のように見直しました。多くの方に、希望する形で留学の道が開けることを期待しています。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/study_abroad/210617_1.html

なお、休学して行う留学についても、同様の判断となります。詳しくは以下をご覧ください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/study_abroad/210618_1.html

秋からの留学の判断の最終段階で、このような急な動きが出たことで、かえって困っている方も多いのではないかと心配していますが、秋から、あるいは冬からの留学に向け、準備をいただければと願っています。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】 コロナワクチン接種について（その2）（2021.06.25）

本学構成員の皆さんへ、

コロナワクチン接種に関し、2点ご連絡します。

1. 全構成員対象の接種について

本学の全構成員（学生・留学生、常勤・非常勤の教職員など）を対象に、

第1回接種：8月17日（火）、8月18日（水）

第2回接種：9月14日（火）、9月15日（水）

の予定で、大学拠点接種を実施します。諸般の事情により、当初の予定より接種日が各1日減りましたので、ご注意ください。

上記につき、6月28日（月）の朝6時より予約を受け付けます。

予約の方法は、下記をご覧ください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/210618_1.html

また、接種に必要な情報やワクチンに関する情報は、下記をご覧ください。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/covid19vaccine_info.html

2. 7月6日（火）の先行接種の予約をされている皆さんへ

接種に必要な情報は、下記のサイトに掲載されています。必ず確認し、準備をしてください。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/covid19vaccine_info.html

7月6日の接種場所は、本部管理棟です。予約の時間になりましたら、本部管理棟1階守衛所側入り口においで下さい。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】 間もなく始まる夏学期を前に（2021.07.13）

学生の皆さんへ、

春学期の授業期間が明日で終わります。開講コマ数では対面授業が65%を占めていましたが、受講者の多い授業の大半がオンラインで行われていたことにより、多くの方は、半数以上の授業をオンラインで受けていたのではないのでしょうか。大学としては、学内のWiFi接続に問題が発生している箇所の改善などに努めてきましたが、世界的な半導体不足の影響がこんなところ(!)にまで及んでいて、思うようには進まず申し訳なく思っています。半導体の供給が需要に追いつくことを祈りつつ、引き続き改善に努めてまいります。さて、間もなく始まる夏学期を前に、3点、お願いです。

(1) アンケートのお願い

春学期を終えての、皆さんの感想などを伺いたいと思います。授業アンケートとは別に、以下のアンケートにお答えいただければ幸いです(授業アンケートも、どうぞよろしく!)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfjOJAerTOEh4adQyxdeMebU0a655MJMmQNMWkCpQxw4shgxcg/viewform?usp=sf_link

(2) 夏学期のサークル活動について

本学では、これまで緊急事態宣言中はサークル活動を原則禁止してきましたが、感染防止に何が重要かが科学的にわかってきた現在、これまでの対応を見直し、希望するサークルについては、夏学期の7月27日(火)から活動が再開できるようにいたします。

ただ、本学の全学電気施設点検や夏季一斉休業、また大学拠点ワクチン接種の関係で、8月3日(火)、8月7日(土)～18日(水)の間は、活動を休止するようお願いいたします。

すでに夏学期の活動を見直された後のお知らせとなり申し訳ありませんが、希望するサークルは、自分たちでできる感染対策を十分に話し合った上で、活動計画書などを提出するよう、お願いします。なお、活動前後の会食や合宿については、引き続き控えて下さい。

(3) 本年秋学期について

本年秋学期の授業の実施形態について、これまで、新型コロナウイルス感染の状況を見守ってきましたが、おそらく完全な収束は見込めないことから、春学期同様、対面授業とオンライン授業の混合で実施します。これにともない、履修登録期間を以下のように設定します。春学期同様、対面で行われる授業や「教養外国語科目」の登録は、第1次登録期間で締め切られるケースもありえますので、教務課からのお知らせによく注意してください。

第1次登録期間：9月24日(金) 10:00～9月27日(月) 14:00

第2次登録期間：9月29日(水) 10:00～10月7日(木) 17:00

本来でしたら、夏学期イコール短期海外留学というのが、本学の日常でした。「伝統」といってもよいかと思います。しかし、2年続けてそれが断絶しました。コロナ禍の下で、伝統的なものをどう継承していくかは大きな課題だと実感します。最も大事な本学の「伝統」、外語祭についても、皆さんの間で、議論と苦心が続いていると伺っています。大学としても皆さんの「苦心」の結果をできる限り応援していきたいと思っています。そのためにも、科学的な根拠に基づくコロナ感染防止対策（それには、皆さん自身のワクチン接種も含みます）に向け、皆さんが、適切な行動をとってくださることを、心から願っています。

長い夏学期の期間、どうか、元気に有意義な日々をお過ごしください。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】8月17・18日の本学でのワクチン接種中止について（2021.07.30）

8月17・18日（第1回）と9月14・15日（第2回）に予定しておりました本学での大学拠点接種につき、本日午後、この日程でのワクチンの供給ができない旨の連絡が文部科学省よりありました。この日程で接種を予定していた学生・教職員の皆さんには本当に申し訳ありません。

今後、東京医科歯科大学や他大学と調整し代替手段を検討しますが、取り急ぎ、上記の件、ご連絡いたします。可能であれば、以下の会場での接種の申込などをしていただければ幸いです。

1) お住まいの市町村

2) 東京都の大学会場におけるワクチン接種（一橋大学・東京都立大学・青山学院大学）

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/coronavaccine/univ.html>

ここまでお待たせした上に、残念なお知らせで大変申し訳ありません。代替手段については、決まり次第ご連絡します。

なお、留学予定者等を対象とした8月3日（火）の第2回目接種は、予定通り行われます。

東京外国語大学長
林佳世子

【学長メッセージ】東京外国語大学を支えて下さる皆様へ、学生へのご支援のお願い（2021.08.06）

2014年にスタートしました建学150周年基金の募金期間も、2023年末のゴールまで残すところ2年半を切り終盤となっております。

この間、税制改正により税額控除対象となった修学支援事業基金の追加、評価性資産現物寄附受入を可能とする基金適格確認の取得など、都度基金メニューを拡大しながら皆様のご支援をお願いして参りました。特に昨年来の新型コロナ感染症拡大で影響を受け、生活に困窮した学生の支援を目的とした緊急募金のお願いには数多くの皆様にご協力を頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。また、既にこれまでに頂きましたご寄附の一部を課外活動支援や、学内環境整備などに活用開始しており、教育、研究の充実にに向けた努力を続けております。

残る期間に本学教職員総力を挙げて取り組んで参ります。卒業生、保護者の皆様からの重ねてのご支援を賜れば幸いです。

よろしくお願い申し上げます。

<東京外国語大学基金サイト>

<http://tufs-fund.jp/>

2021年8月

東京外国語大学長

林 佳世子

【学長メッセージ】 ワクチン接種「代替措置」に申し込まれた皆さんへ（2021.08.12）

本学における拠点接種の代替措置となるワクチン接種に申し込まれた皆さんに連絡です。前回の連絡時には最終確認がとれておりませんでした。本日、実施が確定しました。その旨、お知らせします。

なお、希望調査は8月16日（月）16時まで受け付けています。まだの方は8月6日（金）に送付された学務情報システムの連絡に従い、お申込みください。

東京外国語大学長

林 佳世子

【学長メッセージ】 ワクチン接種「代替措置」に申し込まれた皆さんへ（その2）（2021.08.23）

本学で予約されていたワクチン接種にかわり、東京工業大学におけるワクチン接種に申し込まれている皆さんに連絡です。本日、東京工業大学より、予約方法および接種当日の持ち物等について、個別にお知らせメールが送られます。明朝までにメールが届かない場合は、SPAMメールなどもご確認いただいた上で、東京外国語大学 コロナワクチン対応班（covid19vaccine@tufs.ac.jp）までお問合せ下さい。

接種日時の予約の入力期限は、8月26日（木）正午12:00（厳守）です。期限までにお申し込みください。

併せて以下のページもご参照ください。

- ・コロナワクチン接種を予約された方へ

東京外国語大学長

林 佳世子

【学長メッセージ】 秋学期を前に（2021.09.13）

夏学期も終盤にさしかかりました。有意義に過ごしておられるでしょうか。あと半月で秋学期が始まります。それを前に3点、ご連絡です。

1. 授業の体制

秋学期の授業は、春学期同様、対面とオンラインの混合で行われます。どうか、春学期にたいへんだった点を思い出し、対面とオンラインを適切に組み合わせた時間割を組み立てていただきたいと思います。履修登録の予定は以下の通りです。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/education/20210826_kiroku1.html

2. 感染対策

東京都の新規感染者数が減少していることは朗報ですが、まだ気が抜ける状況ではないことはいまでもありません。本学会場・東工大会場などでワクチン接種を行った方も多いと思いますが、まだ1度も接種ができていない方もいるかもしれません。繰り返しになりますが、ぜひ、東京都の大会場接種を利用するなどし、接種を行うようお願いします。

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/coronavaccine/univ.html>

なお、本学では、健康上の理由で未接種の方などを主な対象に、希望者へ抗原検査キットの配布を行うことを予定しています。配布場所や配布の条件などは、後日お伝えしますので、お知らせに注意しておいてください。

3. 秋学期の行事

秋学期に行われる本学最大の行事である外語祭について、本日、外語祭実行委員会より対面での料理店開催の中止の発表がありました。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/210913.html

私たちもとても残念ですが、多くの人と一緒に飲食するリスクを考えると致し方ないと思います。外語祭実行委員会の苦渋の決断を支援するとともに、学生の皆さんのご理解をお願いします。1年生の皆さんが、日ごろの専攻語・専攻地域の

学習をいかした料理店以外の活動として何ができるか、大学としてできるだけ協力をしますので、ぜひ工夫いただきたいと思います。困難な中ですが、思い出に残る第99回の外語祭が実施できることを祈っています。

以上です。10月に元気にお会いできることを楽しみにしています。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】外語祭の成功を祈ります（2021.11.18）

いよいよ、明日から外語祭が始まります。コロナ禍がひとまず収まっている中で、学生の皆さんの生き生きした姿を見ることができることを、とてもうれしく思います。

外語祭は、そんじょそこの学園祭とは違う！ それは、私たちみんなの共通の思いです。1900年（明治33年）からの長い伝統、大学の学びと直結する語劇や催し、（たぶん）日本で一番長い5日間の開催、そして外語祭実行委員会をはじめとする学生の皆さんの準備と本番にかけるエネルギー。これらは、外語祭あつての東京外大だと思わせるに十分なものです。

だからこそ、どうか、無茶なく、事故なく、感染拡大をまねく行為なく、外語祭の5日間を無事に進めていただくよう心からお願いします。そして、晴天が続くといいですね！ ハイブリッド開催という新しい形の第99回外語祭の成功を、教職員一同、心から祈ります。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】秋学期の終了にあたり、皆さんへメッセージ（2022.01.14）

来週の月曜日で秋学期の授業期間が終了します。再びコロナ感染者数が増え、心配な状況が続いていますが、皆さん、健康に過ごされているでしょうか。今日は、4点お伝えしたいことがあります。

1) 感染拡大への注意

すでに2年の経験を積み、今回の感染拡大に対し、社会全体では比較的落ち着いて対処できるのではないかと思います。ただ、一人ひとりにとっては、感染するか、しないか、の二つに一つしかありません。どうか、自分自身が感染しないよう、そして周りの人を感染させないよう、できるだけことはしていきましょう。マスク、手洗い、三密の回避はいうまでもありませんが、熱っぽいときには行動自粛をお願いします。検査の機会も増えています。大学でも抗原検査キットを配布していますので、ぜひご活用ください。詳しくは、学生課からの連絡をよく読んでいただくようお願いいたします。過度

に恐れることなく、しかし慎重に、健康に過ごしてください。

検査キット申込アドレス：

https://sanda.tufs.ac.jp/shinsei-gakuseika/?page_id=35

また、体調不良のとき、濃厚接触者となったとき、そして陽性と判定されたときは、引き続き大学への連絡をお願いします。

新型コロナ関連連絡フォーム：

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

2) 卒業を控えた皆さんへ

無事、卒論を提出されたものと思います。おめでとう。3月23日の卒業式は必ず行います。ただ、プロメテウスホールに学部ごとに集まれるか、教室への分散になるかの決定は、いましばらく保留させてください。いずれの場合も学部の卒業式は昼から午後の時間帯ですので、そのつもりでご準備いただければ幸いです。

http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210323_1.html

3) 成人を迎えられた皆さんへお詫び

1月10日の「成人の日」が授業日になってしまった関係でご迷惑をおかけしました。公欠等の手続きをとって、無事に臨まれたものと思いますが、面倒をおかけした点、学長としてお詫びします。成年年齢は法律上、この4月から18歳に変わりますが、20歳が大きな節目であることに変わりはありません。皆さんへ、またご家族の方々へ、心からお祝い申し上げます。

4) 来日が果たせていない留学生の皆さんへ

依然として多くの留学生の方を日本に迎え入れることができていない状況に対し、本当に申し訳なく思います。本学の一員である皆さんが、1日も早く日本に入国できるよう、大学としてできるだけ働きかけはしているのですが、結果が出せず心苦しい思いです。オンラインでの仲間や先生方とのつながりを大切に、どうかあきらめずにいてくださることを願っています。

以上です。繰り返しになりますが、どうか皆さん、注意深く行動し、健康にお過ごしください。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学の皆さん、そして本学で学んだウクライナの皆さんへ
(2022.03.01)

イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学の皆さん、そして本学で学んだウクライナの皆さんへ、

本日、本学の交流協定校であり、本学が Global Japan Office を設置しているイヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学の学長より、悲痛なメールをいただきました。本学構成員は、みな、事態を深く憂慮し、ロシアの侵攻の危機にさらされている皆さんの安全を心から願っています。対話による平和が1日も早く訪れることを切に望みます。また私たちにできることを行う決意です。

2022年3月1日

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】新学期を前に（2022.03.24）

皆さん、東京は今週、雪も降りましたが、桜は今にも咲きそうです。皆さんがキャンパスに戻ってくる頃には満開ではないかと楽しみにしています。本学は昨日卒業式を終え、学部 921 名、大学院 126 名の方を送り出しました。晴れ晴れとした笑顔をみることができ、ほんとうにうれしかったです。そして、間もなく新入生を迎えます。また、待ちに待った留学生の皆さんの来日が始まっています。2年間のコロナ禍を超え、アフターコロナ時代の大学生活がいよいよ始まりまします。引き続き注意を怠らず、しかし過剰に恐れることなく、真の意味での「新しい日常」を一緒に作り上げていきましょう。

さて、新学期に向け、7点、お知らせです。

（1）留学生の皆さんへ

学部・大学院に在籍しながら1年にわたり来日が果たせなかった皆さんの入国が、ようやくはじまっています。お待たせして本当に申し訳ありませんでした。今いる場所、接種済みのワクチンの種類と回数などにより条件はさまざまなため一斉に入国とはいきませんが、順次来日が実現します。どうか、本学の留学生課と密に連絡をとってください。大学院生の場合は、指導教員とも連絡をとっていただければ幸いです。

（2）時間割の組み立て

すでに、学務情報システム上で公開されているシラバスでご覧の通り、本学では感染症の状況に拘わらず大人数の講義形式授業はオンラインで実施しつつ、1・2年次の専攻言語、教養外国語、GLIP 英語、演習などの授業は対面で行うことを基本に、授業編制を行いました（例外も結構、ありますが・・・）。学内でオンライン授業を受講するための教室は引き続き用意しますが、ご自身の通学にかかる時間も考慮し、詰め込みすぎない最適な時間割を組み立てていただくようお願いいたします。

また、今回よりシラバスを改修して、検索画面上で、授業科目区分ごとを一覧で表示できる機能を追加します。こちらもまもなく公開されます。是非、ご活用ください。

<https://gakumu-web1.tufs.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SylSearchMain.aspx>

(3) オンライン授業受講用スペース

オンライン授業受講用教室といえば 101 教室です。こちら、椅子がバタンといわないものに替わりました（意味、わかりますよね?）。寒さ暑さをもろともせず、よくご利用いただいているガレリア 1 階の机と椅子も替わりました。加えて、これまでロッカーのあった場所に、オンライン用個室ボックスが 29 個、設置されます。オンライン授業で発表があたっている時や就職の面接などにご利用いただければと思っています。基本、自由な（早い者勝ち?）利用形態を予定していますが、状況をみつつ検討していきたいと思っています。なお、依然として半導体不足の影響で WiFi ポイントの増設が叶わず、しばらくの間は有線での接続になりますので、ご注意ください。

(4) 100 円朝食

東京外語会のご支援により実施している学生の皆さんの「食」への支援ですが、新学期からは、100 円朝食プログラムがメニューを増強して始まります。4 月 7 日から開始し、朝、8 時から 9 時半まで、1 日 100 食限定で提供します。朝食をしっかりと食べ、生活リズムを整えていただきたい、という願いからです。どうぞ、ご活用ください。

(5) 図書館の開館時間

4 月 7 日から図書館の開館時間の設定がシンプルになります。

1 年を通じ、

平日 9 時～20 時

土曜日 13 時～20 時

日曜・祭日 休館

となります。

これまで、ちょっと複雑で、行ったら閉まっていたという経験もあるのではないかと思います。簡単になりましたので、覚えてください（お盆休みや年末年始、外語祭等の行事の時には、若干の例外があります）。なお、夜については 8 時までです。本学は、大学の立地を考え、夜は 8 時で活動を終了させ、帰宅を促しております。ご協力ください。

(6) サークル活動

引き続き、感染対策はしっかりしつつ、サークル活動は活発に行っていただきたいと願っています。新入生の勧誘が行われる時期ですが、オンラインでの勧誘活動を基本とし、新歓を目的に、大人数での長時間に渡る飲食の場を設けることは控えてください。いったん感染が広まれば、活動停止などに追い込まれます。どうか、正常な活動をつづけるため、無理のある行動はしないよう、くれぐれもご注意ください。

新型コロナウイルスに感染した場合のフローチャートや課外活動についてのお知らせは、以下を参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/202001virus.html>

(7) ワクチン接種

3回目のワクチン接種が必要とされています。お住まいの地域で受けた方も多いと思いますが、

- A) 東京大学会場での接種
- B) 東京工業大学会場での接種
- C) 東京医科歯科大学での接種

も利用可能です。

Aは本学関係者はどなたでも申し込めます。以下をご参照ください。

http://www.tufs.ac.jp/NEWS/notice/220316_1.html

BとCは準備中です。Bは、A同様、どなたでも申し込める予定です。Cは、昨年7、8月に本学会場で接種した方だけが対象となります。詳細は追ってお知らせしますので、しばらくお待ちください。

以上です。では、新学期まであと少し。元気にお過ごしください。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】 新入生の皆さんへ (2022.04.06)

新入生の皆さんへ、

TOEIC テスト、学部別オリエンテーション、健康診断、新入生歓迎行事、入学式、専攻語別オリエンテーション、先輩方による語科別懇談会、履修登録、、、と4月に入り怒涛の日々かと思えます。そして、明日から授業開始です。大変だと思えますが、大学のホームページや学務情報システムに掲載されるお知らせを1つ1つ丁寧に読んでいけば、大丈夫。無理せず、落ち着いて、一步一步、進んでいってください。

すでに、あちこちでお知らせしていることですが、特に大事なことだけまとめておきます。

(1) 学務情報システム、ZOOM 情報の取得

ご存じだと思いますが、まずはここを、よ〜く読んでください。

http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/2022tufsedu_spr.html

なお、学務情報システムのパスワードは、10回間違えると、翌日までいったん学務情報システムに入れなくなります。パスワードの管理にはご注意ください。

オンラインで行われる授業のリンク情報は、履修登録した授業の「お知らせ欄」に掲載されていますので、「お試し受講」

の場合も含め、いったんは履修登録してください。時限の変更・教室の変更など、学期始めはいろいろなことがあります。教務課からのお知らせに特に注意してください。

(2) オンラインの授業を学内で受けるとき

時間割の関係で、ZOOM を用いたオンラインの授業を学内で受ける時は、研究講義棟の 101、227 をご利用ください（ZOOM 専用教室）。また、授業のない時は、102、103、107、108、109、113、114、115 も利用可能です。また、研究講義棟 2 階の 5 室、及び図書館の備え付けデスクトップコンピューターも利用可能です。アクセス方法は、それぞれの教室に掲示されています。

さらに、明日からは、研究講義棟 1 階の「タフボックス（個室学習スペース）」の利用が始まります。発話を伴うような授業の際にご活用ください。

で、大事な点は、それ以外の場所ではインターネットにはつながっても、ZOOM には入れない、という点です。事情によりそのように設定されています。ご注意ください。

また、WiFi の利用状況は、研究講義棟入り口やガレリア内のモニターに表示されています。WiFi が込み合っていると、ネット回線が遅くなったり、止まったりする事態も発生します。研究講義棟に入る際にはモニターを確認し、空いている部屋をご利用ください。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

1) まずは、体調管理です。研究講義棟入り口のサーモセンサーで、1 日 1 回は体温を確認ください。不調を感じたときは、登校せず自宅待機をお願いします。また、陽性と判定されたときだけでなく、濃厚接触者となった時や、体調不良の時は、以下よりご連絡ください。授業の公欠などの扱いに関しご連絡いたします。

<https://sanda.tufs.ac.jp/emergency-contact/covid19/>

2) 大学では、3 回目のワクチン接種を強く推奨しています。新入生の方は、住民票のある地域の自治体以外でも、

- ・東京大学会場
- ・東京都の学生用接種会場
- ・東京工業大学会場

などで接種が可能です。

東京工業大学会場については、間もなくアンケートをとりますのでご協力をお願いします。接種券の届いている方は、以下を参照し、早めの接種の予約を、ぜひともお願いします。

<http://www.tufs.ac.jp/NEWS/important/202001virus.html#k>

3) サークル活動については、十分な注意のもと、実施してください。サークル活動そのものよりも、活動後の飲食が感染拡大の原因となる事例は、多数報告されています。先輩方にも注意していますが、サークル活動を維持していくために

も、長時間・大人数での無謀な飲食は、どうか控えてください。

(4) 相談窓口

大学に入って戸惑うことも多いだろうと思います。履修に迷ったり、からだが変調をきたしたり、おかしな勧誘にあったり、、、 などなど。まずは、「学生相談の総合案内」を訪ねてください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/>

相談内容に応じ対応しますので、どうぞ遠慮なく、申し出てください。

* *

ところで、念のため一つお伝えしたいと思うことは、成人年齢云々に拘わらず、これまでも、これからも、大学は、大学生の皆さんを「大人」として扱うという点です。うっかりしたり、ちょっと甘えてしまったり、投げ出したくなることもあるでしょうが、結果は、自身にふりかかってくる。昨日、オリエンテーションで注意のあった「不正行為」などもその範疇です。どうか、自由に、しかし責任をもった行動で、有意義な大学生活を送りましょう。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】 夏学期を前に学生の皆さんへ（2022.07.12）

学生の皆さんへ、

例年になく夏の始まりが早い今年、6月後半から暑くてたいへんでしたね。今週は春学期の授業最終週。しばらくは試験やレポートに追われることと思いますが、それが終われば晴れて夏学期。コロナの再拡大は心配ですが、9月末までの期間、有意義に過ごしていただきたいと思います。今日は5点、お知らせです。

(1) たふさぼ「春学期どうだった？」アンケートのお願い

研究講義棟入り口の「癒しボード」がいつも気になる「たふさぼ」からアンケートのお願いです。春学期全般についての状況調査、および意見聴取となります。ご協力、どうぞよろしくお願いします。締め切りは、7月22日です。

<https://forms.gle/vyrvfZAMPDhCFdzA9>

(2) ショートビジットに行かれる方へ

まるまる2年間の空白を経て、ショートビジットが再開します！総勢382名が参加予定です。行先トップ10は、アイランド国立大学コーク校41名、ブリティッシュ・コロンビア大学29名、レジャイナ大学29名、イスファハン大学26名、リーズ大学24名、アンカラ大学23名、アダム・ミツキエヴィチ大学15名、ウィーン大学14名、ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学13名、モンゴル国立大学13名と続きます。上位を英語圏が占めますが、イラン、トル

コ、ポーランド、ベトナム、モンゴルもトップ 10 入りしているところが、本学らしいですね。

さて、出発する皆さんにお願いです。第一に、新型コロナやワクチンのことも、治安のことも、お金のことも、すべて気を抜かず、しっかり情報収集をしてください。世界に出たら（日本でもそうですが）、自分の身は自分で守らなくてはなりません。それには、まずは情報です。第二に、留学支援共同利用センターを通じ、本学との連絡を日常的に密にしてください。いざという時のためです。どうぞよろしくをお願いします。

ようやく開いた世界への扉です。多くの皆さんが、この夏に、今しかできない有意義な体験をしてくださることを心から願っています。

（3）夏学期期間の大学施設の利用

暑い夏に、クーラーのきいた快適な場所で勉強したい方も多いと思います。8月第2週（8/6～13）の一斉休業期間を除き、附属図書館は平日は9時～20時、土曜日は13時～20時の間、開いていますのでご利用ください。研究講義棟については、エネルギー問題の深刻な折、なるべく節電を心がけ、集中講義等で使っていない教室は基本閉室となりますが、一部の開放も予定しています。研究講義棟入り口に開放教室番号が示されますので、確認の上、涼しく利用してください。

（4）サークル活動

すでに学生課よりお知らせしておりますように、気温が35度を超えるような猛暑の日には屋外での活動は中止してください。命の危険があります。35度以下であっても、気温の高い日の活動時は積極的に休憩を取って、水分補給をしてください。（3）で示される教室に一時避難もあるかと思えます。熱中症にくれぐれも注意して活動ください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/220701_3.html

（5）TUFS Cinema

最後になりますが、こちらも2年間の空白をへて、TUFS Cinemaが復活しました。そんじょそこらでは見られない映画が上映されます。ヨルダン映画、マレーシア映画の会が終わり、8月5日にはキューバ映画が上映されます。皆さん、奮ってご参加ください。

<https://wp.tufs.ac.jp/tufscinema/2022/06/30/220805/>

コロナ禍を越えて、こうした行事が復活することは、ほんとうにうれしい限りです。そして、秋には第100回を迎える外語祭が待っています。「With コロナ」の経験値をいかして、新しい学園祭が生まれていくことを心から楽しみにしています。

では、皆さん、この夏を、健康で有意義に過ごしてください。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】秋学期開始にあたり、学生の皆さんへ（2022.09.30）

コロナ禍を越えて、「普通」が戻ってきつつあります。ここ2年半、学期始めには皆さんにメッセージを出して、あれはダメ、これもダメと言わざるを得ませんでした。そろそろ、そんなことも終わりです。制限のない日常を送っていただきたいと心から思います。とはいえ、まだ東京都だけでも日々、数千人という陽性者が出ており、大学関係者からの感染の連絡も後を絶ちません。感染対策は、無理のない範囲で、ぜひ続けていきましょう。

1. マスクは推奨です

マスクについていろいろな意見があることは承知しています。世界を見ても、これほどマスクをしている国は日本くらいかもしれません。しかし、多少なりとも効果があるなら、もうしばらくは続けてはどうでしょうか。野外や人と接触しないときは外す、人と話すときは付ける、といった簡単なルールで、マスクを使ってもらいたいと思います。授業においては、教員の指示に従ってください。

2. 引き続き、「新型コロナ関連 連絡フォーム」を利用ください

感染した場合や濃厚接触の場合の連絡フォームは、引き続き、運用します。ご連絡に応じ、公欠の扱いなどを大学より連絡しますので、ご活用ください。

3. 楽しい外語祭

さて、秋の一大イベントは外語祭です。盛沢山な企画が予定されていると聞いています。実行委員会の皆さんの献身的な努力に心から敬意を表します。とくに、1年生の料理店は3年ぶりに復活です。リアルな料理店ができなかった今の2年生、3年生の皆さんも、ぜひ、食べる側で参加ください。誰にとっても楽しい第100回の外語祭になることを祈っています。

4. 保育所が開設されました

スタジアム通りの側のタフモニュ協に9月から保育所が開設されました。本学の大学院生や教職員のお子さんだけでなく、近隣の子供たちが通い始めました。かわいい姿に、ほっこりします。そんな気分になりたいときは、ぜひ近くに行ってみてください。

5. 相談窓口を活用ください

新学期に向け、いろいろと困ったことがあるかもしれません。どうか一人で悩まず、誰かに相談してください。大学が用意している相談窓口の一覧はこちらです。ご活用ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/>

6. 交換留学生在が到着しました

長らく困難な状況にあった「日本への留学」の門戸が開かれ、本学からの派遣との交換で、世界各国の協定校から200人近くの留学生在が日本に到着しました。多くの方は国際交流会館に入りました。バディーの皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。専攻語を使っただけの交流も再開です。サークルなどにも、ぜひ、誘ってあげてください。

7. 「100 円朝食」再開

OB/OG 組織である東京外語会のご支援などで実施している生協の「100 円朝食」。来週月曜日から再開です。お安いだ
けでなく、生活リズムをつかむのにも最適です。どうぞ、早起きして、ゲットしてください。

http://www.tufs.ac.jp/student/NEWS/student_life/220926_1.html

8. 節電へのご協力をお願いします

本学は、エコロジカルな観点からこれまでも節電に努めてきましたが、今年は経済的な問題にもなっています。昨今の電
気料金の値上がりは信じがたい額に及んでいるからです。本学の昨年の光熱費は年間 9 千万円くらいでしたが、今年は、
年間 1 億 8 千万円 (!) くらいになる見込みです。もちろん払いますが (笑)、とんでもない値上げに面食らっています。

というわけで、無駄な電気を使わないよう、教室の電気、空調の使用などに配慮いただくよう、学生の皆さんもぜひご協
力をお願いします。

以上です。新学期、大学で会いましょう。なお、大学に来たら、本部管理棟の前の花壇にも足を止めて下さい。こちらは、
ガーデニングクラブの学生・職員の皆さんのお蔭です。メンバー募集中とか。学内のあちこちが花であふれるといいです
ね。

東京外国語大学長 林佳世子

【学長メッセージ】 秋学期の終わりにあたり、学生の皆さんへ (2023.01.25)

1 月 27 日 (金) で秋学期の授業が終わります。ほぼコロナ禍以前の形で行われた外語祭をはじめ、思い出に残る学期だ
ったのではないのでしょうか。まだまだ、試験やレポート、AL 課題などに追われているかもしれませんが、それが終われ
ば 4 月までかなりの自由な時間です。どうか有意義に過ごしてください。今日は、8 点、お知らせなどです。

(1) 卒業式について

卒業・修了予定の皆さん、無事に卒論・修論提出おめでとうございます。終わった今から考えると、これに向けて、何年
も過ごしたのだと思いませんか? 残った問いを問い続けながら、どうか新しい道に進んでください。そんな皆さんを送り
出す卒業式・修了式ですが、すでに発表していますように、3 月 24 日 (金) に学部別と大学院の 3 回にわけてプロメテ
ウスホールで実施します。保護者の方々のご来校も歓迎します。3 年ぶりに、一同に会しての式典が行えることを心から
楽しみにしています。

http://www.tufs.ac.jp/event/2022/230324_1.html

(2) 来年度の授業の予定

在校生の皆さん、2023 年度の授業の予定やシラバスは 2 月中旬頃の発表を予定しています。引き続きオンラインに適し
た一部の授業はオンラインで行いますが、今年以上に対面授業が増えます。とはいえ、オンライン授業もあることから、
引き続き、Zoom 専用教室は設けます。1 月に入り、101 や 227 のパーティションがなくなったことで、ちょっとビツ

クリされたかもしれませんが、これは入試との関係でやむを得ない措置でした。来学期は、227 教室のみがパーティション設置となります。発話があったり、個室感(?)が欲しい方は、227 教室、またはタフボックスを利用下さい。そのほか、115 教室が、Zoom 専用教室となる予定です(こちらは、パーティションなし)。

(3) ガレリアの暑さ寒さ

この季節、寒さの中、ガレリアで勉強されている皆さんを見ると心配になります。どうか、4 階、5 階のグループ学習スペースや図書館、空いている教室を使ってください。ガレリアは建物の構造上、空調がつけられません。設計上、吹き抜けは屋外のようなものなのです(涙)。風邪をひかぬよう、屋内に避難(!)してください。

(4) アンケートにご協力を!

Academic Support Center (タフサポ) が呼びかけている「秋学期、どうでしたか?」アンケートは、もう出しましたか?こちらに書いていただいた内容は、学部の先生方や、大学執行部の私たちにもしっかり届いています。どうぞご協力ください。

<https://forms.gle/d11ZTnxQBwbjs7347>

(5) 冬学期のショートビジット

冬学期、289 名の方がショートビジットに旅立ちます。どうか、気を付けて行ってきてください。また留学支援共同利用センターとの連絡を密にとってください。ただ、世界の情勢は依然厳しく、行きたくても行けない国も少なくありません。本学の皆さんには、しっかり、自分の目で、危機の只中にある世界をみてきてほしいと願っています。

(6) 体の不調、心の不調

コロナには慣れてきましたが、まだまだ不安は続いています。体や心に不調を感じたら、ゆっくり休んで。それでも不調が続く時は、どうか周りに頼ってください。大学の相談窓口もありますし、学外機関が本学学生専用で対応する「TUFSS ころほっとライン」は、学生相談窓口が閉まっている夜間・休日にも相談を受け付けています。どうぞ、困っているときは遠慮なくご利用ください。

学内の相談窓口：学生相談室「予約申し込みフォーム」から

https://www.tufs.ac.jp/student/consultation/consultation_guidance.html

学外の相談窓口：「TUFSS ころほっとライン」で検索ください。

(7) 運動場の人工芝化を目指しています

大学では、運動場の人工芝化を目指して募金活動をしています。誰にとっても、本学の運動系サークルの活躍はうれしいものです。人工芝化は、その活躍の一助となります。また、人工芝になったら、運動部でない皆さんにもいろいろな機会に運動場を活用してほしいと思っています。寄付という行為は、皆さんにはまだ身近ではないかもしれませんが、大学が、OB/OG の皆さんや保護者の皆さんに寄付をお願いしていることを知っておいていただければ幸いです。

(8) 『統合レポート 2022』を発表しました。

大学という場合は、教育・研究・社会貢献を任務としています。その全体像や仕組み、財務状況などを紹介する『統合レポート2022』が出来上がりました。大学を支えている事務組織の皆さんの声も聞くことができます。是非、ご一読ください。

http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/pr/pr-brochures/TUFS_ir2022_1p_low.pdf

以上です。寒さの折、どうか元気に過ごしてください。

東京外国語大学長

林佳世子

【学長メッセージ】春学期の開始にあたり（2023.04.03）

例年になく春の訪れが早く、キャンパスはもう新緑に包まれています。新入生の皆さん、また2、3、4年生の皆さん、新しい学期の始まりを新鮮な気持ちで迎えておられることと思います。新学期の始まりにあたり、7点、お知らせです。

1. 教室の利用形態の変更について

上級生の皆さんは、見慣れた101教室の光景が変わったことに戸惑いを感じられているかもしれません。今年度から、101教室は、比較的大人数の対面授業用の教室として使用します。Zoom受講用の教室としては、227教室が引き続きパーティション付きで利用可能です。また、115教室はパーティションはありませんが、常時Zoom受講用の教室となります。もちろん、タフボックスやその他の空き教室、コンピュータ・ルームも、自由に使っていただいて構いません。春学期のオンライン授業の割合は全体では14%です。学内でのZoom授業受講が避けられないケースもあると思いますが、上手に受講スペースを確保いただくことを期待しています。

2. マスクは各自の判断に委ねます

この3年で、すっかりマスクに慣れてしまいましたが、今後、学生・教職員の皆さんのマスクの着用・不着用は各自の判断で行ってください。お互いの判断を尊重しましょう。

3. 学内外での大人数での飲食等について

こちらも、3年間、いろいろな制限がありましたが、解除です。ただし、お酒は20歳になってから！感染対策にも、引き続き、留意してください。

4. 100円朝食は4月10日（月）スタートです

東京外語会の支援で行われる恒例の100円朝食が今年も続きます（毎日100食分）。火曜日はカレーの日、金曜日は丼（!）の日です。早起きして、ゲットしてくださいね。

5. 話題のChatGPT等について

昨年11月に公開されて以来、大きな反響を呼んでいるチャットボットのChatGPT。使っている方も多いと思います。

ものすごく便利な反面、ChatGPT に授業のレポートを書いてもらっていいはずがないことくらいは、皆さんもわかると思います。では、どう使えばいいのか (or 使ってはいけないのか)。正直、まだ答えがみつきりません。大学全体としても検討を行っており、社会的にも様々な動きがありますが、春学期については、授業ごとに指示が出ます。授業によっては効果的な使い方もあるでしょうし、禁止される授業もあるかと思います。一見、不統一になりますが、新しい技術ですので当座は我慢ください。どうか、担当の教員からの指示をよく理解し、それに従ってください。

注記: 本学では、「大学教育における AI 利用について教員向けガイドライン」を公表しています。あわせてご覧ください。

6. ボート大会は5月27日(土)

2回の中止を越え、昨年、恐る恐る行われたボート大会ですが、今年は、端艇部(ボート部)及びそのOBOG会である艇友会のご協力をえて、5月27日(土)に行われることになりました。主に1年生の参加を想定しています。楽しい1日となることを、今から楽しみにしています。

7. ウォーターサーバーが設置されました

学生サークル「タフエネ」や、タフサポ主催の「おしゃべり会」での提案を受け、ガレリア内にウォーターサーバーが2か所、設置されました。プラスチックごみの元となるペットボトルの削減を目指す取組です。是非、マイボトルをご持参のうえ、ご利用ください。

以上です。来週からの授業開始に備え、十分な睡眠をとっておいてくださいね!

東京外国語大学長
林佳世子

(本件担当)

東京外国語大学教務課教務企画係

Tel: 042-330-5168

Mail: kyoumu-kikaku@tufs.ac.jp